

人権啓発ワークショップ事例集
ワークショップを
やってみよう

参加型の人権教室



法務省委託 2016(平成28)年1月発行

企画：法務省人権擁護局
ホームページ <http://www.moj.go.jp/JINKEN/>

監修：桜井 高志(桜井・法貴グローバル教育研究所 代表)

制作：公益財団法人 人権教育啓発推進センター
〒105-0012 東京都港区芝大門二丁目10番12号 KDX芝大門ビル4F
電話 03-5777-1802(代表) FAX 03-5777-1803
ホームページ <http://www.jinken.or.jp>

*複製・転載についてはお問い合わせください。

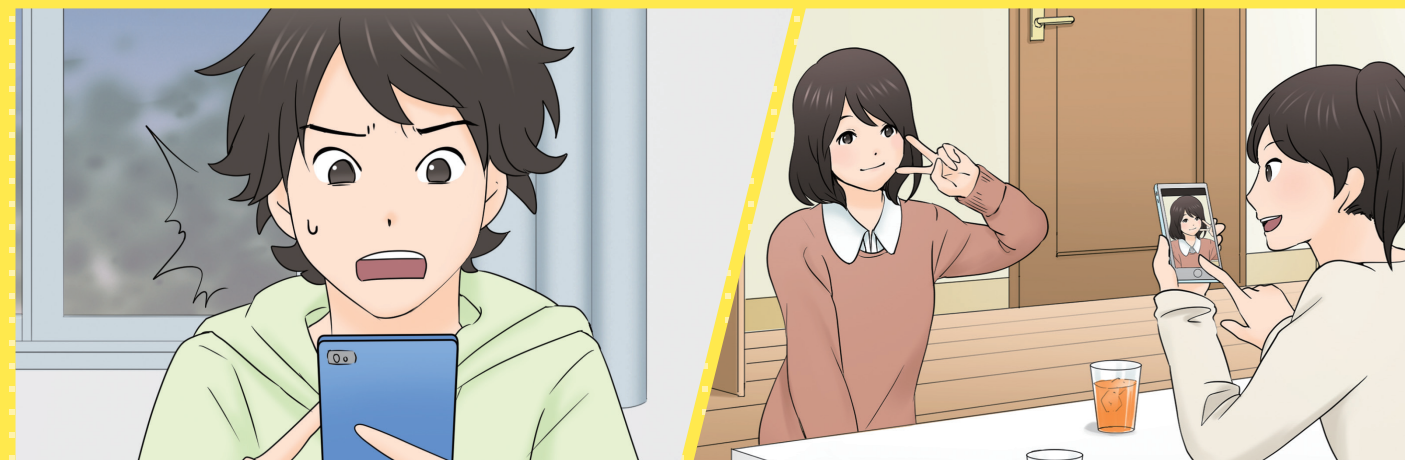
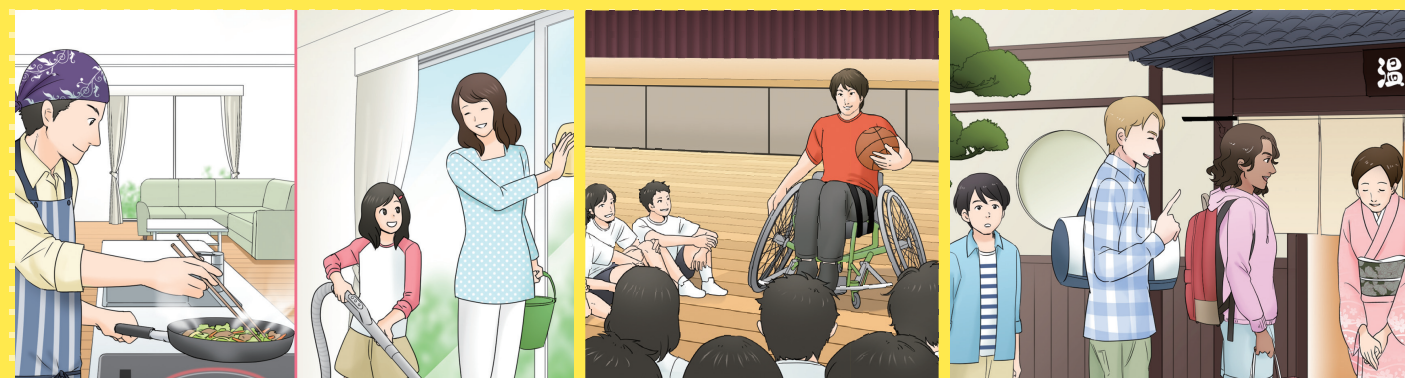


リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

人権啓発ワークショップ事例集

ワークショップを やってみよう

参加型の人権教室



公益財団法人 人権教育啓発推進センター

人権啓発ワークショップ事例集

ワークショップをやってみよう

参加型の人権教室

●はじめに 3

ワークショップの基本・準備 4～7

●ワークショップとは 4

●ワークショップの目指すもの 5

●ファシリテーターの役割・心構え・技術 6

●事前準備, 実施の際の留意点 7

ワークショップの実施例①「人権全般」 8～15

●①「人権全般」プログラムの全体概要 8

●プログラムの進行台本『人権標語づくり』 10

ワークショップの実施例②「障害のある人」 16～23

●②「障害のある人」プログラムの全体概要 16

●プログラムの進行台本『障害って何だろう?』 18

ワークショップの実施例③「外国人・多文化共生」 24～31

●③「外国人・多文化共生」プログラムの全体概要 24

●プログラムの進行台本『どうしたら分かり合えるの?』 26

ワークショップの実施例④「インターネットと人権」 32～41

●④『「インターネットのルールとマナー」を考えよう!』プログラムの全体概要 32

●プログラムの進行台本『「インターネットのルールとマナー」を考えよう!』 34

●DVDの構成内容 42

●DVD貼付／「資料集」のデータの取り出し方 43

はじめに

価値観の多様な現代社会においては、自分の人権や価値観が尊重されると同時にあらゆる人の権利が尊重されるようになることが大切です。そのためには、人権について学び、正しくコミュニケーションを取ることが必要です。

我が国でも、平成14年3月に策定された「人権教育・啓発に関する基本計画」（平成23年4月一部変更）に基づき、国民が人権に関する正しい知識と日常生活の中で生かされる人権感覚を身につけることができるよう、学校、地域、職場その他の様々な場を通じて人権啓発が行われてきています。

この基本計画では、「学習意欲を高めるような参加・体験型の学習プログラムの開発を図る」、「国民が主体的・能動的に参加できるような啓発手法（たとえば、各種のワークショップや車椅子体験研修等）にも着目し、これらの採用を積極的に検討・推進すべき」と、参加・体験型学習の推進が求められています。

こうした中、参加者自らの知識や体験をもって積極的に関わるワークショップの手法を取り入れた人権啓発学習の機会が広がりをみせています。

ワークショップ型の人権啓発は、人権文化を基盤にした社会作りを目指してきた欧州などで発展した方法で、人権意識と責任感のある市民社会の形成に有効であるとされています。

この手法は、単に人権侵害や差別をなくすことに留まらず、すべての人々が人権を自分事として捉え、社会形成の当事者としての意識を持ってもらうように導きます。

参加・体験型であるワークショップは、参加者の理解と共感を引き出すことにポイントが置かれ、指導者が自分の考えを押しつけるのではなく、参加者自身が自分と向き合い、自発的に考え、思い、気づくことに特徴があります。

平成26年度には、人権擁護委員や、地方公共団体等の人権担当者（以下「人権擁護委員等」という）向け教材「人権啓発ワークショップ事例集 ワークショップをはじめようー参加型の人権教室ー」を作成しました。

今回、新たにワークショップで活用できる参加者向けの視聴覚教材（DVD）と、人権擁護委員等がワークショップを企画する際の参考となる実施例を充実させた、より実践的なガイドブックを作成しました。

人権教室をはじめ、人権教育・啓発の場において、ワークショップを導入する取組は今後さらに増えていくことが見込まれます。

人権擁護委員等の皆様がワークショップを企画し効果的に進めるための手引として、本書が活用されることを願っています。

ワークショップとは

ワークショップとは

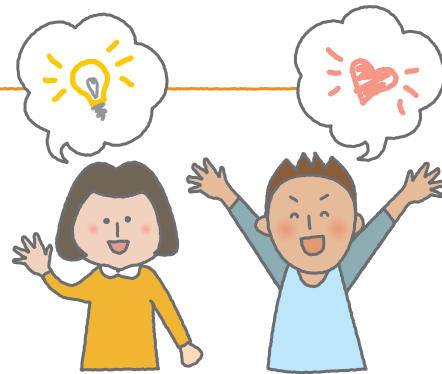
ワークショップはもともと「作業場(さぎょうば)」「工房」という意味です。人が集まって何かをつくる場所というイメージです。

現在では、参加者が、テーマについての活動や体験を通して気づいたり、考えていく場のことを意味するようになりました。

主役は参加者、ファシリテーターは進行・案内役

ワークショップでは、あらかじめ用意した答えや結論を教えるのではなく、参加者が気づいたこと、感じたこと、考えたことを大切にします。

ワークショップで、その場をつくっていくのは参加者です。そして、参加者の活動に寄り添いながら、より多くの気づきや学習ができるように支援する、ワークショップの進行・案内役を**ファシリテーター**と呼びます。



アクティビティによる協働と学習

ワークショップで重要な役割を持つ**アクティビティ**とは、ワークショップに参加して行う「意見交換」「作品作り」「発表」「疑似体験」などの活動のことです。アクティビティを通して、参加者は皆で同じ体験をしますが、それぞれの持っている知識・経験・個性・価値観などにより、気づきや感じ方は様々です。また互いに刺激し合い、ひとりでは思いつかないことが創造できたり、ひとりの考えや思いが、メンバー全体を成長させたりすることもあります。これがアクティビティによる協働です。こうして参加者は新たな気づきを得たり、それを行動に移す手段を見つけるなど、自ら学習していくことができるのです。



プログラム

ワークショップはプログラムに沿って進行します。ワークショップのテーマ・目標を限られた時間内で最大限に達成するために、何をどんな順番で行うのか考えておく必要があります。

ワークショップの目指すもの

プログラムの全体を組み立てる

ワークショップのプログラムの全体構成は「オープニング(導入)」「ワーク(展開)」「クロージング(まとめ)」の3つから成り立っています。これらは、いくつかの「場面」によって構成されます。まず、全体の組み立てを考えましょう。

プログラムの
全体の
組み立て

タイトル	
テーマ・目標	
時間配分	場面
	オープニング(導入) ねらい
	ワーク(展開) ワーク(展開) 1 ねらい
	ワーク(展開) ワーク(展開) 2 ねらい
	ワーク(展開) ワーク(展開) 3 ねらい
	クロージング(まとめ) ねらい
アクティビティ	
導入のアクティビティ	
アクティビティ	
アクティビティ	
アクティビティ	
まとめのアクティビティ	

1 オープニング(導入)

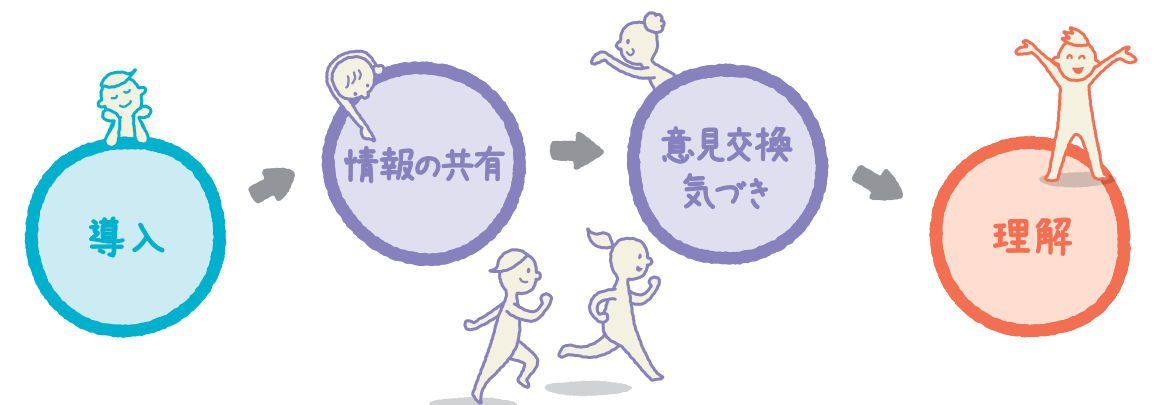
ワークショップの「導入」部分です。参加者全員で「ワークショップのテーマ」「進め方」「約束」などを共有します。また、参加者の気持ちをリラックスさせ、ワークショップのテーマを考える動機づけをします。話しやすい雰囲気をつくるなど、参加者がワークショップに積極的に参加できるかどうかが決まる大切な時間です。

2 ワーク(展開)

ワークショップの「中心部分」です。「ワーク(展開)1」「ワーク(展開)2」というように、いくつかの「場面」が組み合わせられてできています。情報の共有や意見交換、新たな気づきを見つけることがねらいです。各場面は、1つ以上のアクティビティからなり、目的に向かってワークショップを進めていきます。

3 クロージング(まとめ)

ワークショップの「まとめ」の部分です。参加者がどんな感想を持ったか、何に気がついたか、気持ちよく参加できたか、発言できたか、話を聞けたかなどワークショップ全体をふりかえります。参加者は、多様な考え、思いがあることを知り、自分の考えや思いの変化にも気がつき、テーマに対する理解が深まります。



ファシリテーターの役割・心構え・技術

事前準備, 実施の際の留意点

参加者のやる気を引き出す

ファシリテーターは、全体の進行・案内を行います。しかし、参加者の中には、人前で話すのが恥ずかしい、模造紙に書くのが面倒くさいなどと思っている人もいます。また、一人ひとりの意欲は高くても、場のまとまりがない場合もあります。ワークショップは、ひとつの正解や予定していた答えが出るように参加者を指導することが目的ではありません。ファシリテーターの役割は、参加者の主体的な気づき、学びを支援することです。相互作用から生まれる一人ひとりの新しい気づきを尊重し、学びを引き出していきます。

ファシリテーターも気づき変化していく

参加者の経験、個性、能力はそれぞれ違い、大切なもの、価値観も皆違います。それはファシリテーターも同様です。ワークショップを通じて、ファシリテーターも新たな気づきを得て変化し、成長することができます。

第一印象は大切

ファシリテーターは場をつくる大切な存在です。以下のことを心がけましょう。

服装、髪形、化粧は清潔第一

優しそう、楽しそう、
元気そう、真面目そう

親しみやすい笑顔

リラックス

落ち着いた雰囲気

安心感

元気な話し方

聞きたくなる

きちんと聞く姿勢

話したくなる

ファシリテーターの技術「問い」

ワークショップを進行するときに重要な技術の一つが「問い」です。「問い」によって参加者の好奇心、注意力、思考、創造力を引き出します。

● 質問文の形にする

テーマを質問文の形にすると、議論の目的がはっきりします。
(例) ×「いじめについて」考えましょう
○「どうしていじめが起きるのか？」考えましょう

● 答えやすい問いから考える問いへ

いきなり結論を問いかけても、参加者はすぐには、明確な答えも新しい考えも、言葉になって出てきません。
(例) ×「この体験から何を学びましたか？」
○「いま、どのような体験をしましたか？」
→「この体験で何を感じましたか？」
→「なぜ、そのように感じたのでしょうか？」
→「そこから何を学びましたか？」

● 一度にたくさんの問いをしない

聞きたいこと、考えて欲しいこと、大切なことを一度に問いかけると、参加者は、何から答えていいか、どうやって話そうか、考えがまとまりません。
(例) ×「あなたの強みは何ですか？
弱みは何ですか？
その強みは本当に強みですか？」
○「あなたの強みを3つ考えてください」

● 誰もが答えを持っている、 答えられる問いから始める

アクティビティの開始時には、誰がどう答えてもよい問いにします。
(例) 「最近、楽しいことはありましたか？」
「いま食べたいものを想像してください、それは何ですか？」

人数による場の設定

1人



沈黙の時間。自分の気持ちや考えを見つけ、文字にする時間。

2人



親密な意見交換をするとき。話しているうちに気づきや、触発作用を生み出す。

3人



新しい意見が出やすい。1人が観察者にもなる。

4~6人



チームが成立する。互いの知識や意見が多様化する。チーム間の意見交換で意思決定にもつながる。

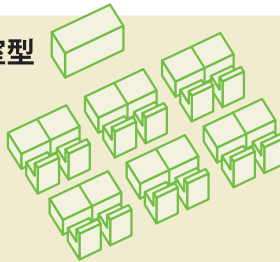
全員



まとめる、ふりかえりは全員で。アクティビティを体験し、一体感を育む。

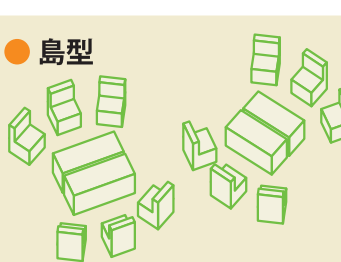
レイアウトによる場の設定

● 教室型



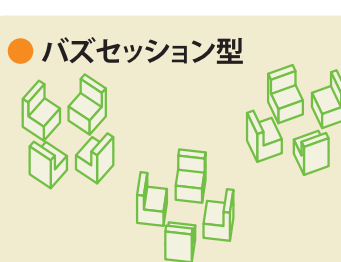
学校の基本形。授業のイメージが強い。映像の視聴など。机が固定されている場合は、隣同士、前後でグループをつくとよい。

● 島型



4~6人が一つの机を囲む形。グループ活動がしやすい。模造紙を使うアクティビティ以外ではテーブルを少なくする。

● バズセッション型



3~4人程度で椅子を寄せて小さな円を作る。リラックスした、話しやすい雰囲気になる。人の移動も楽にできる。

● 椅子なし型

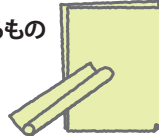


床に座る。体育館などでは自然にこの形になる。

ワークショップで使うもの

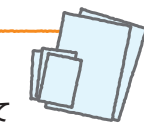
● 模造紙

白紙または罫線、マス目のあるもの
・ルールを事前に書いておく
・アクティビティでつくった作品、グループ協議のまとめ



● A4やA3の白紙

・個人の感想や気づきを書いてまとめるときなど、ワークシートとして使う
・イラストやポスター、標語づくり



● 色紙、折り紙 数色

・アクティビティで使用する



● ストップウォッチ

● 数字の大きい卓上時計

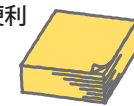
● キッチンタイマー

教室の時計でもよい
キッチンタイマーは音が鳴る
・アクティビティで1分、3分など短く時間を区切る必要がある場合はストップウォッチが便利



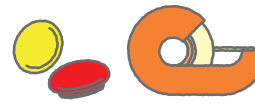
● 付箋紙

名刺サイズが使いやすい
・意見交換のときに便利



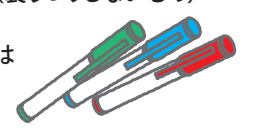
● マグネット

● セロハンテープ
壁に貼り出すときに必要
・環境に合わせて使用



● マジック

カラフルな水性のもの(裏うつりしないもの)
中太がよい
・アクティビティによっては参加人数分3色以上あるとよい



● ベル

● ゴング

● BGM (CD, MDカセットなど)

・時間を知らせる音の鳴るものがあると、意見交換の時に時間内に話そうと意識する
・BGMは休憩時間や、沈黙の時間などに使うとよい



1「人権全般」プログラムの全体概要

テーマについての背景・基本的な考え方

人権とは、私たちが幸せに生きるための権利で、人種や国籍、性別、言語等を超えて誰もが生まれながらに持っている権利です。

1948(昭和23)年12月10日、国際連合(国連)は世界人権宣言を採択しました。この宣言は、すべての人間が人間として尊重され、自由であり、平等であり、差別されてはならないことを定めており、国際社会の基本的ルールの大きな柱となっています。

日本国憲法も、人権に関して同じ趣旨を定めています。

人権は、私たちの日常生活のいちばん基本のルールといえるでしょう。しかし、ともすれば私たちは「人権はややこしい、むずかしいもの」と思いがちです。

家庭・地域、職場・学校などの身近なところで誰もが人権の

考え方を尊重するようになれば、人権が私たちの日常生活の中に「文化」として定着し、豊かで暮らしやすい社会が実現するのではないのでしょうか。

ワークショップの実施例①では「人権全般」をテーマとしたプログラム『人権標語づくり』を紹介しています。

標語をつくるためには、まず、人権とは何かを考えることから始まります。人権とは何かを考えるときに、自分自身のこととして考え、そして、家族のこと、学校や社会のことと視点を広げていきます。

各ワークを通して、参加者は正しい人権感覚と人権意識を養い、みんなが幸せに生きるためにどうしたらよいか考えていきます。

アニメのあらすじ

『どうしたらみんなが幸せに暮らせるの?』

このアニメでは、小学校高学年の女の子とその家族を通して、日常生活の中で人権に関わるエピソードを紹介します。

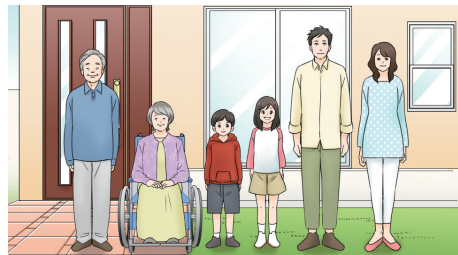
女の子の家では、お父さんとお母さんが家事を二人で分担したり、一緒にやっています。しかし、女の子の友達が遊びに来たとき、お父さんがケーキを振る舞うと、友達に女の人みたいで変ねと言われます。

おじいちゃんは写真が趣味で、あちこち出かけて撮ってきた写真をブログにアップしていますが、近所では、年をとっても活動的で、ちょっと変わったおじいちゃんって言われています。

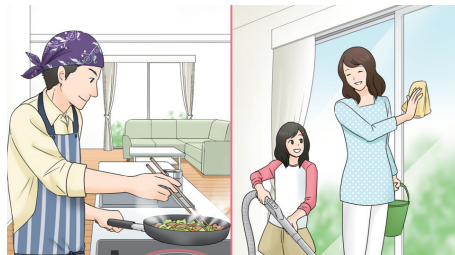
おばあちゃんは、最近、車椅子になりましたが、今度、家族みんなで温泉に行こうと話をしています。しかし、近所の友達は、車椅子なのに温泉旅行に出かけるなんてわがままだと言います。

いつも元気だった弟が、最近、元気がありません。学校の友達に、一人だけ意見が違うから変だ、空気読めよと言われて、とまどっています。

女の子が、みんなが幸せに暮らすためには、どうしたらいいのかと、問いかけます。



女の子と家族6人



家事を分担する父と母



写真やブログを楽しむ活動的なおじいちゃん

タイトル 人権標語づくり

対象者／人数

中高生／40人程度

日程・時間／場所

50分／教室

テーマ
目標

● 人権とは何かを考えるときに、従来の「いじめはいけない」や「障害のある人を助けなければいけない」などだけにとどまることなく、柔軟な発想で“人権”について考えてみることで、人権感覚や人権意識を養う。

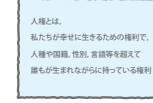
準備物

● アニメの視聴環境

● 「人権とは～」を書いた模造紙

● ワーク2で使用する
ワークシート(白紙・人数分)

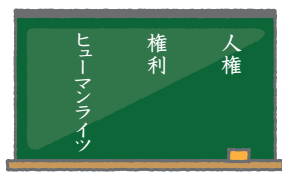
● セロハンテープ、マグネット
(貼る場所に適したもの)

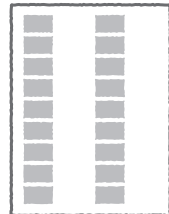


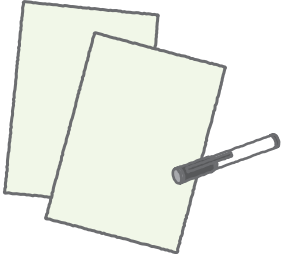
	時間	ねらい	場面／アクティビティ／問い	場の設定
1	5分	場をつくる 本日のテーマに入りやすくする	オープニング(導入)『チェックイン』 (1) ファシリテーターの挨拶。 (2) 「人権」という言葉からイメージすることについて、何人かに聞き、出てきた言葉を黒板に書き出す。 (3) 本日のテーマを伝える。	教室型でスタート
2	10分	基本的な知識・情報を共有する	ワーク(展開)1『アニメ視聴』 (1) アニメ視聴『どうしたらみんなが幸せに暮らせるの?』。 (2) 視聴後、内容を簡単に整理する。 (3) 数名にアニメの感想を聞き、次のワーク(展開)2につなげる。	・ DVDが見やすい位置に椅子を移動してもよい ・ 太陽の反射で画面が見えにくくならないようにテレビの向きに配慮する ・ 「人権とは～」を書いた模造紙
3	10分	テーマに対する理解を深める	ワーク(展開)2『なぜ人権は大切なのか?』 (1) アニメから得た情報をもとに、自分たちの生活の中にある人権について考える。 (2) 「なぜ人権が大切なのか?」を隣の人と話し合っってワークシートに3つ以上書き出す。 (3) 各グループの発表を聞いて、人権の大切さ、人権を守ることの重要性について理解を深める。	・ 二人一組 ・ ワークシート(一人に1枚) ・ 筆記用具
4	15分	意見や考えを交換し、思考を深める	ワーク(展開)3『人権標語づくり』 (1) グループで人権標語を考える(説明)。 (2) グループワーク。テーマに沿った人権標語を短冊に書く。 (3) 各グループの標語を発表し、他のグループと意見を共有する。	・ 6人の島型に分かれる ・ テーマを書いた紙 ・ 筆記具(太めのマジックがよい) ・ 短冊(一人に5枚) ・ 壁に貼り出すときのセロハンテープ、マグネットなど
5	10分	ふりかえり 気づきや考えを共有し、意識変容や行動につなげる	クロージング(まとめ)『チェックアウト』 (1) 数名に感想を聞いて、ふりかえりを行う。 (2) 最後のまとめとして、人権を考えるときに、相手の状況や立場を想像・共感できることが人権につながることを伝える。 (3) 終わりの挨拶。	・ 島型から教室形式に戻す(そのままでよい) ・ 壁には人権標語を貼ったまま

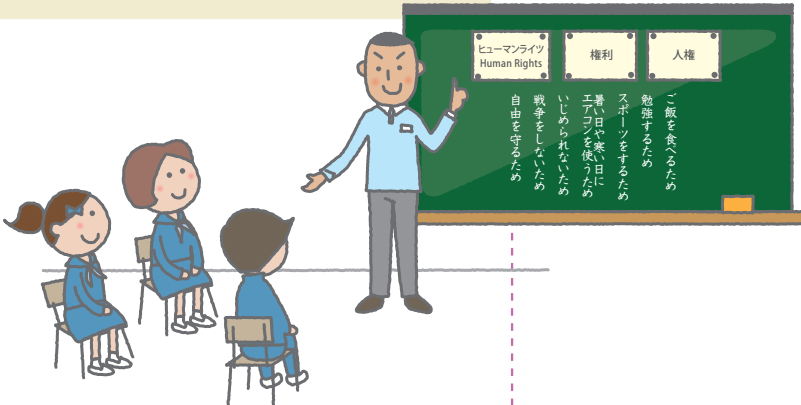
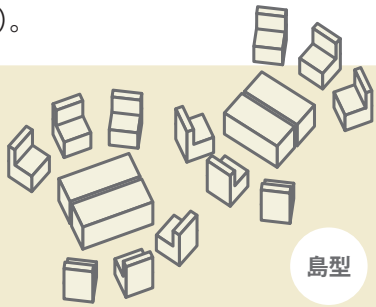
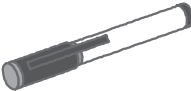
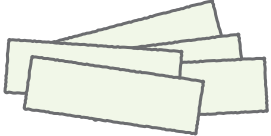
備考

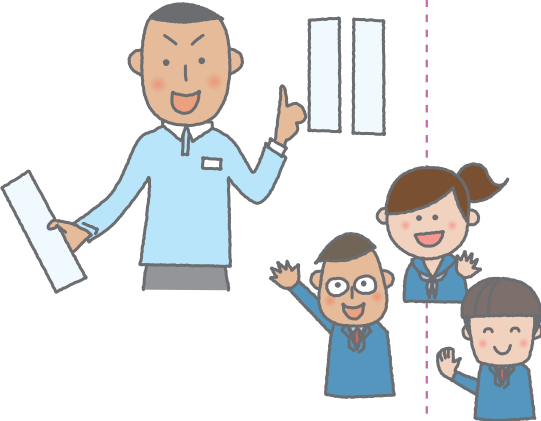
● DVDの視聴環境がない場合は、マンガ(A3サイズ)を人数分コピーし、②で一人1枚ずつ配布する。

時間	場面 / アクティビティ / 問い	場の設定
5分/5分 (1) 1分 (2) 3分 (3) 1分	① オープニング(導入) 『チェックイン』 (1) ファシリテーターの挨拶。 〈問い〉皆さん、こんにちは。ファシリテーターの〇〇です。ファシリテーターとは、このワークショップの進行役のことです。今日は「人権とは何か」をワークショップを通して考えてみましょう。 (黒板に「人権」と書く) 人権とは、人の権利と書きますが、一体どんな権利でしょうか？ もしあなたに人権がなかったとしたら、どんなことに困るか、人権があるからどんなことが守られているか、考えてみましょう。 (黒板に「権利」と書く) (ちなみに) 権利というのは、何かをすること、あるいは何かをしないことを自由に選べるということです。 (2) 「人権」という言葉からイメージすることについて、何人かに聞き、出てきた言葉を黒板に書き出す。 〈問い〉では「人権」という言葉から、どんなことをイメージしますか？ ちょっと考えてみましょう。(数名に近づき、問いかける) 何をイメージしますか？ (例) 「人権を守る」「人権侵害」「人権無視」「助ける」「いじめ」「わかんない」「知らない」など(言葉が出てきたらその都度、板書する) ● 参加者の意見や発言に対し、「そうだね」「なるほど」などと応じる。答えを引き出すのではなく、「答えを聞く」。 (3) 本日のテーマを伝える。 〈問い〉「人権」という言葉から、このようなイメージが浮かんできました。 (板書を読み上げてみる) 「守る、人権侵害、いじめ、わかんない、…」どちらかというと、ちょっと堅苦しい、難しいイメージでしょうか…今日は、この人権とは何だろうか、ということを考えていきましょう。	教室型でスタート 黒板に「人権」と書く 黒板に「権利」と書く 板書は、縦書きは右から、横書きは左から順に書き足していけるようにスペースを空けておく  (画用紙などに「人権」「権利」「ヒューマンライツ」と書いて用意してもよい) * 付属DVDの資料集に、貼りのサンプルがありますのでご活用ください。 

時間	場面 / アクティビティ / 問い	場の設定
10分/15分 (1) 5分 (2) 3分 (3) 2分	② ワーク(展開)1 『アニメ視聴』 (1-1) DVDの準備～ファシリテーターの説明。 〈問い〉これから、短いアニメを見てもらいます。 「どうしたらみんなが幸せに暮らせるの?」というタイトルです。 画面の見やすい位置に移動してくださいね。約3分間です。 (画面が見やすいように、モニターを調整) (アニメスタート) (1-2) アニメ視聴「どうしたらみんなが幸せに暮らせるの?」(3分01秒) ● アニメが終了したら、電気をつけたり、カーテンを開けて環境を整える。 ● DVD視聴環境がない場合は、DVD資料集に収録のマンガを配布する。 配役を決めて、参加者に吹き出しのセリフを読んでもらってもよい。 (2) 視聴後、内容を簡単に整理する。 〈問い〉アニメでは、女の子が、家族みんなが幸せに暮らすためには どうしたらいいのかな、と考えていました。 家事は女性だけがやるものなのか、年をとったら何かにチャ レンジしてはいけないのか、車椅子では温泉に行けないの か、と家族を見ながら考えていますね。 そして、弟は学校を休みがちで、いじめに遭っているんじゃ ないかと心配しています。 「人権とは、私たちが幸せに生きるための権利で、人種や国 籍、性別、言語等を超えて誰もが生まれながらに持っている 権利」です。 人権は、皆さん一人ひとりや、生まれたばかりの赤ちゃんにも、 全ての人に平等にあるのです。 ● 人権についての説明を模造紙に書いておき、黒板に貼り出してもよい。 (3) アニメの感想を数名に聞き、次のワーク(展開)2につなげる。 〈問い〉では、アニメを見た感想、いまの気持ちを教えてください。 ● 「よくわかんない」「別に何も」という意見もあるので「人権って難しいで すね。次のワークでもう一度考えてみましょう」と消極的な発言も受け 止める。	DVDが見やすい位置に椅子を移動してもよい 太陽の反射で画面が見えにくくならないようモニターの向きを配慮する 教室の電気を消すなど、照度の調整をする ● マンガを配布する  * 付属DVDの資料集に収録 「人権とは～」を模造紙に書いておき、黒板に貼り出す(板書してもよい) 人権とは、 私たちが幸せに生きるための権利で、 人種や国籍、性別、言語等を超えて 誰もが生まれながらに持っている権利 * 付属DVDの資料集に、貼り紙のサンプルがありますので活用ください。

時間	場面 / アクティビティ / 問い	場の設定
10分/25分 (1) 2分	③ ワーク(展開) 2 『なぜ人権は大切なのか?』 (1) アニメから得た情報をもとに、自分たちの生活の中にある人権について考える。 〈問い〉では、人権は、人の権利と書きますが、いったいどんな権利なのでしょう? ここでは、皆さんが、自分自身として人権が大切な理由を考えていただきます。もし、自分に人権がなかったらどんなことで困るでしょうか? 隣の人とペアになって、自分にとって人権が必要な理由を話し合ってください。そして、3つ以上、ワークシートに書き出してください。 ● 時間に余裕があれば、憲法で保障される基本的人権や世界人権宣言の条文を提示して、どんな権利があるか説明するとよい。	二人一組 人権 権利 ヒューマンライツ Human Rights ワークシートを配る (白紙を一人1枚) 
(2) 5分	(2) 「なぜ人権が大切なのか?」を隣の人と話し合って、ワークシートに3つ以上書き出す。 〈問い〉では、スタートしてください。時間は5分間です。 ● 教室を巡回しながら「あなたに人権がないと家庭や学校で、どんなことが起こるでしょうか?」などとヒントを提示する。参加者が、どんな話をしているか、書き出しをしているか様子を見ておく。	
(3) 3分	(3) 発表、まとめ。各グループの発表を聞いて、人権の大切さ、人権を守ることの重要性について理解を深める。 〈問い〉時間ですので、お話はそこまでにしましょう。 どんな意見が出たか、教えてください。(挙手を促し、あれば指名する)(挙手がなければ、数名に聞く) (例)「ご飯を食べるため」「勉強するため」「スポーツをするため」「暑い日や寒い日にエアコンを使うため」「いじめられないため」「自由を守るため」「戦争をしないため」など、出た意見を板書する。 〈問い〉いろいろな意見が出ましたね。 最初「人権」という言葉は難しくて、自分には関係ないと思っていた人も、もし自分に人権がなかったらどれだけ困るか、分かったのではないのでしょうか。	

時間	場面 / アクティビティ / 問い	場の設定
	ご飯を食べる、学校へ行く、友達と遊ぶ、スポーツをするなど、当たり前のことも、人権が守られないとできないですね。 また、自分と同じ人権が、全ての人にあります。 自分自身の権利を守ると同時に、他者の権利を侵害しないことで、人権が尊重される社会となることを理解してください。 	
15分/40分 (1) 2分	④ ワーク(展開) 3 『人権標語づくり』 (1) グループで人権標語を考える(説明)。 〈問い〉では、次のワークショップをおこないます。6人の島型に移動してください。 (移動する) 移動したらマジックと短冊を取りに来てください。 これから、グループで人権標語づくりをします。いくつかのテーマから「人権標語」を考えてみましょう。 ● テーマ「中学生の学校生活」「障害のある人の生活」「病気の治療をしている人」など 〈問い〉人権標語とは、自分たちの考えや、みんなに守ってほしいことを、短くはっきりと言い表した言葉です。 文字数は5・7・5は関係ありません。標語に5・7・5が多いのは、日本人になじみのあるリズムだからです。 単語でも熟語でも、英語でも、文章になっても、5・7・5でも、自由ですよ。	6人グループの島型に配置換えし、着席する。 ※事前に担任にグループ分けを依頼しておくとい  マジック  ※マジックの用意がなければ、各自の筆記具でよい 短冊サイズの白紙を一人に5枚配布 ※ 付属DVDの資料集に、「短冊」のサンプルがありますのでご活用ください。  テーマを貼り出す(あらかじめ模造紙に複数のテーマを書いておくとい)

時間	場面 / アクティビティ / 問い	場の設定
(2) 10分	(2) グループワーク。テーマに沿った人権標語を考え、短冊に書く。 〈問い〉では、グループで好きなテーマを選んで人権標語を考えましょう。 最初は、一人ひとりで人権標語を考えます。そして、自分で考えた案を短冊に書いてください。 その後、グループ全員で案を出し合って、よいなと思う案をヒントにして、グループで1つの標語を考えて、短冊に書いてください。 では、人権標語を考えましょう。 時間は10分です。用意、スタート! ● ワーク中にグループを巡回し、意見が出てこない場合には「このテーマからどんな言葉が浮かぶかな?」と問いかけてみる。無理やり答えを引き出さないで、話しをしやすい雰囲気を作る。	
(3) 3分	(3) 各グループの標語を発表し、他のグループと意見を共有する。 〈問い〉(タイマー音) はい時間です。人権標語ができましたか? では、各グループの人権標語を黒板に貼りましょう。 いろいろできましたね。 Aグループから人権標語を読んで、どんな意味か教えてください。 (順に発表させる) ● 発表には「分かりやすいですね」「そういう意味なんですね」程度で感想を語らないでよい。 ● 発表はグループ全員で読み上げるとよい。	各グループの人権標語を黒板(または壁)に貼る。 標語は最後まで貼ったままにする。 

時間	場面 / アクティビティ / 問い	場の設定
10分/50分	⑤ クロージング(まとめ) 『チェックアウト』 (1) 5分 (1) 数名に感想を聞いて、ふりかえりを行う 〈問い〉今日のワークショップでは、人権標語づくりをしました。人権標語づくりはどうでしたか? 難しかった? (例)「面白かった」「言葉を決めるのが難しかった」「人権は難しいと思っていたけど、そうでもない」「人権があちこちにあると思った」など (2) 4分 (2) 最後のまとめとして、人権を考えるときに、相手の状況や立場を想像・共感できることが人権につながることを伝える。 〈問い〉今日は、アニメを見たり、人権標語をつくりながら、「人権」について考えてみました。 最初は、難しいとか、自分にはあまり関係ないとか思っていた人もいましたね。 でも、アニメを見て、自分の周りを見ると、大切にしたいことがたくさんあることにも気が付きましたね。 私たちが生活する社会には、私たちを守ってくれるルールや、相手を思いやる気持ちがたくさんあります。 それは、誰かが守られるだけでなく、自分も守る。自分を大切にするとともに、他の人も大切にすることでもあるのです。 そのためには、お互いの人権を尊重する社会でありたいと思います。 皆さんも家庭や学校で、自分の人権、相手の人権を尊重し合う気持ちを持ち続けてください。 ● 参加者の意見や発言に対し、「そうだね」「なるほど」などと応じる。 答えを引き出すのではなく、「答えを聞く」。 (3) 1分 (3) 終わりの挨拶 〈問い〉今日は、皆さんと一緒に、このワークショップに参加できて、とても楽しかったです。 これからも元気に学校生活を過ごしてください。終わります。 ありがとうございました。	島型から教室形式に戻す (そのままでもよい) 

2 「障害のある人」プログラムの全体概要

テーマについての背景・基本的な考え方

私たちは、誰もが人間として尊重され、人間らしく幸せに生きる権利を持っています。それは、性別、年齢、国籍の違いや、障害のある・なしも関係ありません。

障害のある人を特別視するのではなく、社会のなかで普通の生活が送れるような条件を整えるべきであり、共に生きる社会こそノーマル（普通）な社会であるという考え方を、「ノーマライゼーション」といいます。わが国でも、障害のある人の雇用促進をはじめとして、「ノーマライゼーション」を基本理念の一つとする障害者施策が進められてきました。

しかし、現実には、障害のある人に対する理解や配慮はいまだ十分とはいえず、その結果として障害のある人の自立と社会参加は十分に実現されているとはいえない状況にあります。

ワークショップの実施例②では「障害のある人」をテーマと

したプログラム『障害って何だろう?』を紹介しています。

アニメに登場する車椅子バスケットボール選手は、「障害は人にあるのではなく社会の方にある」「障害は人によって作られるけれど、人によってなくすこともできる」と話します。本実施例では、参加者がこの考えを理解することが大切です。

障害の種類は様々で、車椅子など見た目で見える人ばかりではなく、体の内部等にある障害など見た目で見えない場合もあります。そのため、障害の種類によって物理的なバリア（障壁）は異なります。

さらに、人々の無理解・無関心といった“心のバリア”も重要な問題です。各ワークを通して、参加者は身の回りにはどんな障害があり、どのように取り除くことができるか考えていくことで、誰もが暮らしやすい社会の実現を目指していきます。

アニメのあらすじ

『障害って何だろう?』

車椅子バスケットで活躍しているパラリンピアン根木慎志さんが、中学校の体育館で講演を行います。根木さんは、ユーモアのある語り口で、参加者である中学生との距離を縮めていきます。根木さんが、最初に難しいスリーポイントシュートを披露した後、実際に生徒たちが車椅子バスケットの試合をします。主人公の男子生徒は、車椅子を操作しながらボールを扱う難しさを実感します。

根木さんは、車椅子バスケットが一番上手だった自分に障害があると思うか、問いかけます。生徒たちは、「ない」と答えます。今度は、階段の上り下りができないため、教室に行くことができないが、その障害は何かと問いかけます。生徒たちは、

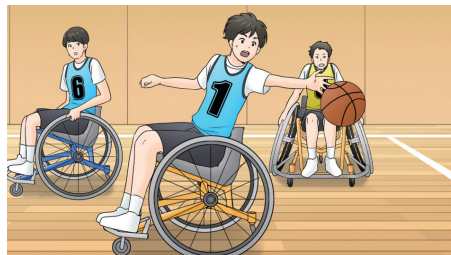
「階段」と答えます。

根木さんは、障害とは、自分たち障害者にあるのではなく、階段のように、社会が作り出しているものであり、社会の努力でなくすこともできることを説明します。エレベーターがあったり、みんなが助けてくれたら、障害がなくなることを生徒たちは理解します。

場面が変わり、私たちの身の回りにある障害を紹介します。車椅子の人を妨げる出入り口にある段差や、歩道の点字ブロックに自転車が置かれている状況などです。最後に、障害とは何かを視聴者に問いかけます。



講演を行う車椅子バスケットボール選手



車椅子バスケットを体験する生徒たち



社会が作り出している「障害」

タイトル 障害って何だろう?

対象者／人数
中学生／40人程度

日程・時間／場所
50分／教室

テーマ・目標

- 障害のある人に対する偏見をなくし、理解と配慮のある社会の大切さを学ぶ。
- 障害のある人＝かわいそう、だから助けるといった短絡的な考えに陥らず、障害があっても健常者と同じ日常生活ができる権利を保障するという考えを理解し、さらに社会にある様々な「障害」を少しでも減らすにはどうしたらいいかを考える。

準備物

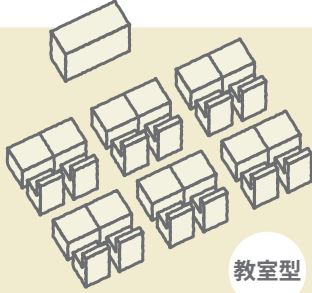
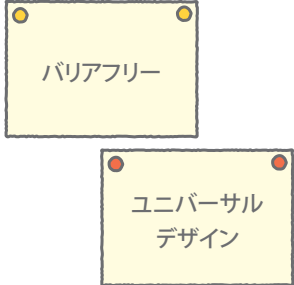
- アニメの視聴環境（モニター）
- 付箋紙（一人5枚程度、名刺大のサイズがよい）
- 筆記用具（マジックがよい）
- 模造紙（グループに1枚）
- セロハンテープ、マグネット（貼る場所に適したもの）

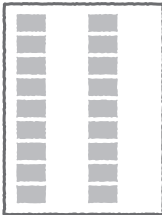
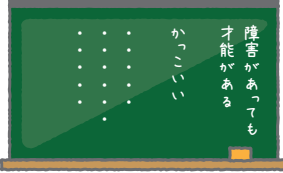
	時間	ねらい	場面／アクティビティ／問い	場の設定
1	5分	場をつくる 本日のテーマに入りやすくする	オープニング（導入）『チェックイン』 (1) ファシリテーターの挨拶。 (2) 「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」という言葉から連想すること、知っていることについて、数名に聞き、出てきた言葉を黒板に書き出す。 (3) 本日のテーマを伝える。	教室型でスタート
2	15分	基本的な知識・情報を共有する	ワーク（展開）1 『アニメ視聴』 (1) アニメ視聴『障害って何だろう?』。 (2) 視聴後、内容を簡単に整理する。感想を聞いてみる。 (3) アニメのまとめを行い、次のワーク（展開）2につなげる。	・ DVDが見やすい位置に椅子を移動してもよい ・ 太陽の反射で画面が見えにくくならないようにテレビの向きに配慮する
3	20分	多様な捉え方、多面的な見方をしううえで思考を深める	ワーク（展開）2 『グループディスカッション』 (1) グループディスカッションの説明をする。 グループ分けをして、各グループのテーマを決める。 (2) 各テーマの障害について、障害のある人が困ることや不便なことを、各自で付箋紙に書き出す。 (3) グループごとに各自で書き出した付箋紙を集めて、内容が近いものをまとめていき、カテゴリーごとに整理する。 (4) 各グループで整理したことを発表する。	・ 6人の島型に分かれる ・ 付箋紙、筆記用具、模造紙を配布 ・ 壁に貼り出すときのセロハンテープ、マグネットなど
4	10分	ふりかえり 気づきや考えを共有し、意識変容や行動につなげる	クロージング（まとめ）『チェックアウト』 (1) 数名に感想を聞いて、ふりかえりを行う。 (2) 最後のまとめとして、代表的なバリアフリーやユニバーサルデザインを紹介（資料を配布）。 (3) 終わりの挨拶。	・ 島型から教室形式に戻す（そのままでよい） ・ 資料配布（DVD資料集9.バリアフリー・ユニバーサルデザイン）

備考

- DVDの視聴環境がない場合は、マンガ（A3サイズ）を人数分コピーし、②で一人1枚ずつ配布する。

プログラムの進行台本『障害って何だろう?』

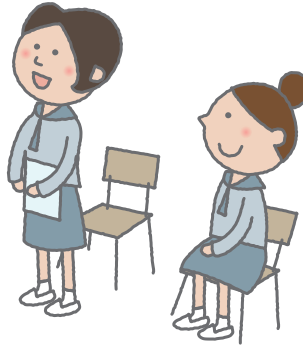
時間	場面 / アクティビティ / 問い	場の設定
5分/5分	① オープニング(導入)『チェックイン』	
(1) 1分	(1)ファシリテーターの挨拶。 〈問い〉皆さん、こんにちは。ファシリテーターの〇〇です。ファシリテーターとは、このワークショップの進行役のことです。今日は「障害って何だろう?」というテーマでワークショップを行います。	*クラスに障害のある生徒が在籍している場合もあるので、事前にクラス担任と内容の打ち合わせをしましょう。 教室型でスタート 
(2) 3分	(2)「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」という言葉から連想すること、知っていることについて、数名に聞き、出てきた言葉を黒板に書き出す。 (黒板に「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」と書く) 〈問い〉「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」という言葉を知っていますか? どんなことをイメージしますか? ちょっと考えてみましょう。(数名に近づき、問いかける)何をイメージしますか? (何も言葉が出てこない場合は「飲食店の入り口のスロープがバリアフリー」や「シャンプーとリンスの区別のための、ボトルのきざみの有無がユニバーサルデザイン」と身近な具体例を話してもよい) (例)「わかんない」「聞いたことがある」「便利だから」「障害のある人のためにある」「お年寄りのためになる」など(言葉が出てきたらその都度、板書する) ● 参加者の意見や発言に対し、「そうだね」「なるほど」などと応じる。答えを引き出すのではなく、「答えを聞く」	黒板に「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」と書く(画用紙などに書いて用意してもよい)  *付属DVDの資料集に、「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」の貼り紙のサンプルがありますので活用ください。
(3) 1分	(3)本日のテーマを伝える。 〈問い〉「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」は、「障害のある人のためにある」「お年寄りのためのもの」という意見がありました。(そういう意見がなければ、「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」は何のためにあるのでしょうか、と問いかける)さて今日は「障害のある人が暮らしやすい社会」について、アニメを見たり、みんなで話し合ったりしていきます。	

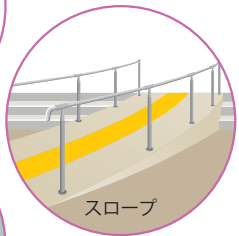
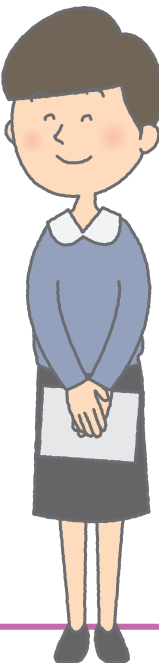
時間	場面 / アクティビティ / 問い	場の設定
15分/20分	② ワーク(展開)1『アニメ視聴』	
(1-1) 1分	(1-1)DVDの準備〜ファシリテーターの説明。 〈問い〉これから、短いアニメを見てもらいます。「障害って何だろう?」というタイトルです。画面の見やすい位置に移動してくださいね。(画面が見やすいように、モニターを調整)約4分半の内容です。どうぞ、よく見てください。(アニメスタート)	DVDが見やすい位置に椅子を移動してもよい 太陽の反射で画面が見えにくならないようモニターの向きを配慮する 教室の電気を消すなど、照度の調整をする
(1-2) 5分	(1-2)アニメ視聴「障害って何だろう?」(4分41秒) ● アニメが終了したら、電気をつけたり、カーテンを開けて環境を整える。 ● DVD視聴環境がない場合は、同じ内容のマンガを配布する。配役を決めて、参加者に吹き出しのセリフを読んでもらってもよい。	● マンガを配布する  *付属DVDの資料集に収録
(2-1) 1分	(2-1)視聴後、内容を簡単に整理する。 〈問い〉いかがでしたか? アニメの内容をふりかえりましょう。車椅子バスケの選手、根木さんには、誰もかいませんでしたね。根木さんは車椅子の人に障害があるのではなく、車椅子で階段が上れないことが、障害なのだと言っていました。もしエレベーターがあれば、もし、手助けをしてくれる人がいれば、2階に行くことができます。さて、障害って何でしょう? そして、どうしたら障害をなくすことができるのでしょうか?これから、みんなで考えましょう。	
(2-2) 3分	(2-2)アニメの感想を数名に聞き、板書する。 〈問い〉どんな場面が印象的でしたか? 感想を聞かせてください。(例)「障害があっても才能がある」「障害があっても、トップアスリートだからすごい」「カッコいい」「階段とか、段差とか、なくせばいい」「障害者を困らせることが障害」など(意見を板書してもよい) 〈問い〉アニメをみて驚いた人もいましたね。カッコいいという意見もありましたね。そして、体の障害ではなく、学校や地域、社会には障害のある人の行動を妨げる障害があることが分かりましたね。(視聴後の感想を引用して問いかけをする。)	発言は板書するとよい 

プログラムの進行台本『障害って何だろう?』

時間	場面 / アクティビティ / 問い	場の設定
(3-1) 3分	(3-1) アニメのまとめを行い、次のワーク(展開)2につなげる。 〈問い〉さて、アニメの後半に私たちの身の回りにある障害の場面が登場しました。 ・施設の出入り口に段差があって車椅子の方が施設に入れず困っている。 ・街中の点字ブロックに自転車が置かれていて、視覚障害者の通行の妨げになっている。 ・障害者用の駐車場に健常者の人が車を止めていた。 ・盲導犬を連れた視覚障害者が入店を断られた。 という4つの場面がありましたね。 〈問い〉では、その障害をなくすにはどうしたらいいでしょうか？ (数名に問いかける) (例)「階段ではなくて、スロープにすればいい」「道路や駅の点字ブロックのところには自転車や物を置かないようにする」「盲導犬のことをよく理解する」「障害者用の駐車場には絶対に止めない」これらが出てこなかったら、「たとえば、道路や駅の点字ブロックのところには物を置かない、というルールを守ることによって障害がなくなりますね」と具体例を出す。	
(3-2) 2分	(3-2) ワーク2の準備～6人グループ、島型に移動。備品を配布する。 〈問い〉では、これからグループワークをします。6人の島型に移動してください。 (移動する) 移動したら、付箋紙とマジックと模造紙を取りに来てください。 (マジックの用意がなければ、各自の筆記具でよい)	6人グループの島型に配置換えし、着席する。 ※事前に担任にグループ分けを依頼しておくとい 付箋紙 筆記具 模造紙 車椅子の場合 視覚障害の場合

時間	場面 / アクティビティ / 問い	場の設定
20分/40分 (1) 3分	③ ワーク(展開)2『グループディスカッション「障害のある人が暮らしやすい社会を考えよう」』 (1) グループディスカッションの説明をする。 グループ分けをして、各グループのテーマを決める。 〈問い〉障害にはいろいろな種類があります。生まれながらの障害もあれば、病気や事故で障害のある人になることもあります。車椅子の人、手が不自由な人、視覚に障害のある人、聴覚に障害のある人、内部障害のある人(例えば心臓にペースメーカーを入れている人)、知的障害のある人(発達障害のある人)など、一人ひとり状況が違います。これからグループで「障害のある人が暮らしやすい社会にするために、設備の改善(バリアフリー)や、私たちができること」を考えてみましょう。 今日は、「車椅子の場合」と「視覚障害の場合」の2つについて、考えてみましょう。 ● 事前に模造紙に「車椅子の場合」「視覚障害の場合」の2つのテーマを書いておき、貼り出す。 ● 4グループあれば2グループずつに分けてテーマを渡す。奇数グループの場合は、適宜テーマを分ける。	タイトルを板書(または、事前に書いておき貼り出す) ※付属DVDの資料集に、貼りのサンプルがありますので活用ください。 2つのテーマを貼り出す
(2) 3分	(2) 各テーマの障害について、障害のある人が困ることや不便なことを各自で付箋紙に書き出す。 〈問い〉まず、障害のある人が、日常生活で困ること、不便なことは何かを考え書き出しましょう。 自分で考えたことを付箋紙に書きましょう。付箋紙1枚にひとつ、5つ以上書き出してください。	
(3) 10分	(3) グループごとに、各自で書き出した付箋紙を集めて、内容が近いものをまとめていき、カテゴリーごとに整理する。 〈問い〉個人で書き出した付箋紙を、グループ内で見せ合って、同じような考えを集めて、模造紙に整理して貼ってください。 次に、皆さんが分けた内容ごとに、障害のある人が困ることや不便なことについて、それぞれの解決策や、自分たちでできることを模造紙に書き出してください。 どうしたら解決するか分からない場合は、例えば、自分に障害があつて「水泳をしたい」「旅行がしたい」と思ったときに、どう	模造紙の書き方見本を貼る ※見本は事前に準備しておく。

時間	場面 / アクティビティ / 問い	場の設定
(4) 4分	したら実現できるか考えてみましょう。 (模造紙のまとめかたの見本を見せる) 模造紙には一番上に「車椅子の場合」等の障害の種類を書きます。次に同じ内容の付箋の固まりの上に、解決策の「タイトル」を付けてみましょう。たとえば、「段差をなくす」「声をかける」などです (4) 各グループで整理したことを発表する。 〈問い〉 (タイマー音) はい、時間です。では、各グループの模造紙を黒板に貼りましょう。 いろいろな考えがありますね。Aグループから順に発表してください。 ● 発表には「意外な発見ですね」「いろいろな考えがありますね」程度で感想を語らないでよい。	 
10分/50分	4 クロージング(まとめ) 『チェックアウト』	
(1) 5分	(1) 数名に感想を聞いて、ふりかえりを行う 〈問い〉「障害のある人が暮らしやすい社会」を考えてみました。 障害の種類によって困ること、不便なことがそれぞれ違うことが分かりましたね。 また、障害の種類が違っても同じこともありましたね。どんなことが同じでしたか? 全部の発表を聞いて、皆さんの感想を聞かせていただけますか。 (例)「実際には何に困っているのか分からない」 「地域で考える必要がある」 「アニメの人たちは明るかった。障害を気にしていない」など	
(2) 4分	(2-1) ワークショップのまとめをする。 〈問い〉「身体、知的、精神などに障害がある人にとって、身の回りには様々な障害、バリアーがあります。その障害は、別の誰かや、社会が作ったものなのですが、同時に、みなさん一人ひとりによって、なくしていくことができるのです」	

時間	場面 / アクティビティ / 問い	場の設定
(2-2) 最後のまとめとして、代表的なバリアフリーやユニバーサルデザインを紹介。(資料を配布)。	「障害のある人が暮らしやすい社会」とは、例えば障害のある人が自由に道を歩ける、2階に行ける、レストランで楽しく食事ができる、という権利を保障するということです。 また「暮らしやすい社会」とは、障害のある人のためだけのものではありません。 たとえば、歩道の段差をなくせば、高齢者やベビーカーを押している方も歩きやすくなります。駅の案内板の文字を大きく、ひらがなや外国語表記も書けば、小さな子どもや外国人も読んで理解することができます。 もう一つ、バリアフリーという言葉は、単に設備の改善だけではありませんね。 皆さんの発表にも、困っている人に「声をかける」とか「自分のできる手助けをする」という心のバリアフリーも必要という考えもありますね。 (2-2) 最後のまとめとして、代表的なバリアフリーやユニバーサルデザインを紹介。(資料を配布)。 〈問い〉最初に聞いた「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」を紹介した資料を配ります。 身近なところにたくさんありますね。 バリアフリーもユニバーサルデザインも、障害のある人や高齢者のためだけにあるのではなく、実は、皆さんも使いやすい、役に立つものだということが分かりますね。 「障害のある人が暮らしやすい社会」というのは、「誰もが暮らしやすい社会」なのではないでしょうか。 情報にアクセスすること、学校に行くこと、働くことなど障害のある人の社会参加も同様です。	    
(3) 1分	(3) 終わりの挨拶。 〈問い〉今日は、皆さんと一緒に、このワークショップに参加できて、とても楽しかったです。 これからも元気に学校生活を過ごしてください。終わります。 ありがとうございました。	

③「外国人・多文化共生」プログラムの全体概要

テーマについての背景・基本的な考え方

今日、我が国で生活する外国人が増加している中、言語、文化や習慣等の違いから、外国人をめぐる様々な人権問題が発生しています。

例えば、家主の意向により、外国人であるという理由だけでアパートやマンションに入居させないという差別的取扱がされたり、公衆浴場での入浴が拒否されたり、あるいは、外国人についてあらぬうわさが広まったりといった問題も生じています。

学校では、外国人であるというだけで、いじめの対象となり、未就学につながっている場合もあります。

また、特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動がヘイトスピーチであるとされるなど、社会的な問題になっています。

ワークショップの実施例③では「外国人・多文化共生」をテ

マとしたプログラム『どうしたら分かり合えるの?』を紹介します。

外国人の人権について考えるときに、個別の問題を解決していくことはもちろん大切ですが、本実施例では多文化共生という視点で考え、理解を深めることを目指しています。

多文化共生社会とは、国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化の違いを認め合い、尊重し、互いに助け合いながら、共に生きていく社会をいいます。

各ワークを通して参加者は、日本を訪れたり生活している外国人たちが、日本に来て困ったり、様々なトラブルが生じている現状を理解します。

それらを踏まえて、どうしたら解決できるか、お互いを尊重しながら共生できるか考えていきます。

アニメのあらすじ

『どうしたら分かり合えるの?』

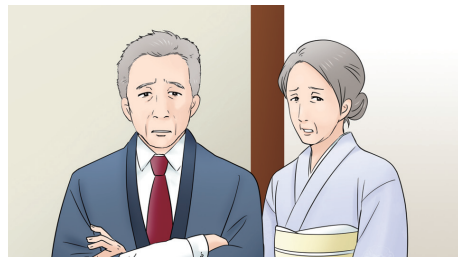
主人公の男の子の家族が営む旅館で、以前は、外国人のお客さんをお断りしていましたが、外国人観光客の増加もあり、受け入れることにしました。祖父と祖母が、外国人についての悪いウワサや言葉が通じない不安を口にし、反対しますが、父が何とか説得しました。

ある時、外国人のお客さんが、夕食に全く手を付けませんでした。理由の分からない母は困惑します。また、外国人のお客さんが来るようになってから、日本人のお客さんからのクレームが増えました。外国人の入れ墨やお風呂の入り方が問題に

なっています。周辺の飲食店にも、外国人のお客さんが増え、にぎやかになりましたが、祖母は、外国人が増えて不安も感じています。男の子のクラスでも言葉の問題があって、孤立しがちな外国人のクラスメイトがいます。

男の子は、外国人のお客さんやクラスメイトと、片言でも積極的にコミュニケーションが取れるようになりました。しかし、祖父と祖母は、なかなか外国人のお客さんを心から受け入れることができません。

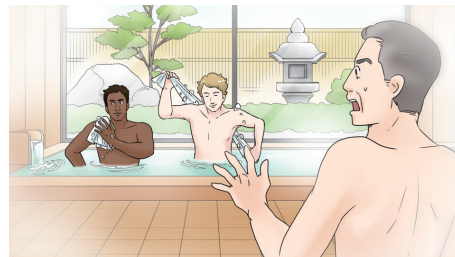
男の子は、どうしたらいいのかと、問いかけます。



外国人客の受け入れに反対する祖父と祖母



食べてはいけない食材や料理がある外国人



日本と外国でルールが違う風呂の入り方

タイトル どうしたら分かり合えるの?

対象者／人数

中学生／40人程度

日程・時間／場所

50分／教室

テーマ・目標

- 世界には多様な人種や国籍、言語、文化があり、様々な境遇の人がいることを知り、お互いに尊重し合い、助け合うことの大切さを理解する。
- 身近な問題を考えることをきっかけとして、多文化共生や外国人の人権について意識を高める。

準備物

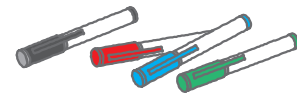
● DVD (DVD視聴できる環境)



● 模造紙 (グループに1枚)



● マジック人数分 (色はバラバラでもよい)



● 世界人権宣言を書いた模造紙

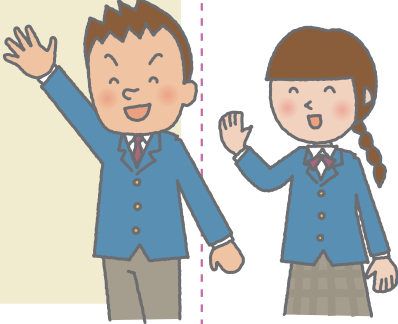
世界人権宣言 第1条
すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である。
(抜粋)

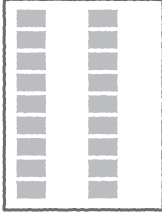
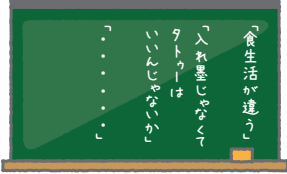
	時間	ねらい	場面／アクティビティ／問い	場の設定
1	5分	場をつくる 本日のテーマに入りやすくする	オープニング (導入) 『チェックイン』 (1) ファシリテーターの挨拶。 (2) 「外国人」をキーワードに問いかけをする。 (3) 本日のテーマを伝える。	教室型でスタート
2	10分	基本的な知識・情報を共有する	ワーク (展開) 1 『アニメ視聴』 (1) アニメ視聴『どうしたら分かり合えるの?』。 (2) 視聴後、内容を簡単に整理する。数名に感想を聞いてみる。 (3) アニメのまとめを行い、次のワーク (展開) 2につなげる。	・ DVDが見やすい位置に椅子を移動してもよい ・ 太陽の反射で画面が見えにくならないようにテレビの向きに配慮する
3	25分	意見や考えを交換し、思考を深める	ワーク (展開) 2 『グループディスカッション』 ● グループディスカッションで「日本を訪れた外国人や、日本に住んでいる外国人が困ること」を考える。 (1) 最初のテーマは「外国人のクラスメイトはどうして孤立したか、どうすれば孤立しないか?」を話し合い、発表する。 (2) 次のテーマは「お風呂 (温泉) の入り方を知らない外国人」を話し合い、発表する。	・ 6人の島型に分かれる ・ 模造紙 ・ マジック ※クラスに外国人の生徒がいる場合、テーマを変えてもよい
4	10分	ふりかえり 気づきや考えを共有し、意識変容や行動につなげる	クロージング (まとめ) 『チェックアウト』 (1) 数名に感想を聞いて、ふりかえりを行う。 (2) ワークショップのまとめをする。 (3) 終わりの挨拶	・ 島型から教室形式に戻す (そのままでよい) ・ 世界人権宣言を書いた模造紙

備考

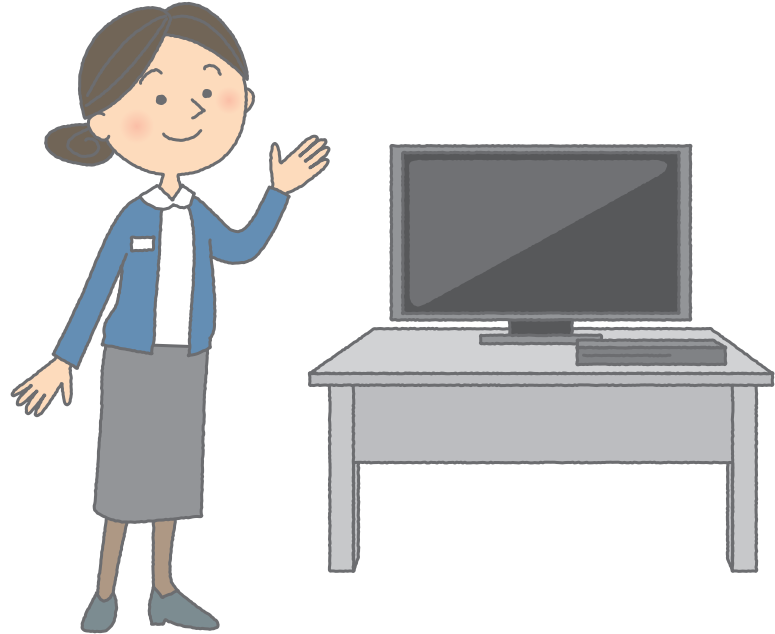
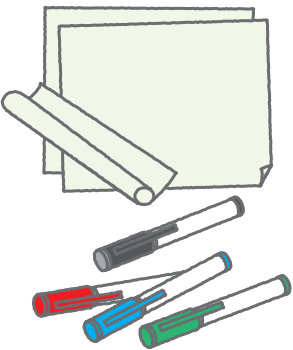
- DVDの視聴環境がない場合は、マンガ (A3サイズ) を人数分コピーし、②で一人1枚ずつ配布する。

プログラムの進行台本『どうしたら分かり合えるの?』

時間	場面 / アクティビティ / 問い	場の設定
5分/5分	① オープニング(導入) 『チェックイン』	
(1) 1分	(1) ファシリテーターの挨拶。 〈問い〉皆さん、こんにちは。ファシリテーターの〇〇です。ファシリテーターとは、このワークショップの進行役のことです。今日は「外国人・多文化共生」をテーマにワークショップを行います。 	教室型でスタート
(2) 3分	(2) 「外国人」をキーワードに問いかけをする。 〈問い〉皆さんの周りに外国人の旅行者や外国から来て生活している人はいますか? いる人、手を挙げてもらえますか? (挙手した人に) 「それはどこの方ですか?」 「その人はどんな言葉を話しますか?」 (誰も挙手しなければ) 「有名で知っている外国人はだれ?」 「それはどこの人?」 「なぜみんな日本語がうまいのかな?」 など、外国人をキーワードに問いかける。 	
(3) 1分	(3) 本日のテーマを伝える。 〈問い〉私たちの周りには、たくさんの外国人がいますね。 直接知っている人もいれば、テレビで見る外国人もいます。 今日は、日本に住む外国人、海外から観光で来る外国人、 (*2020年の東京オリンピック・パラリンピックに来日するたくさんの外国人)と、私たち日本人との関わりを考えてみましょう。 ● 2020年までは東京オリンピック・パラリンピックを強調してもよい。	

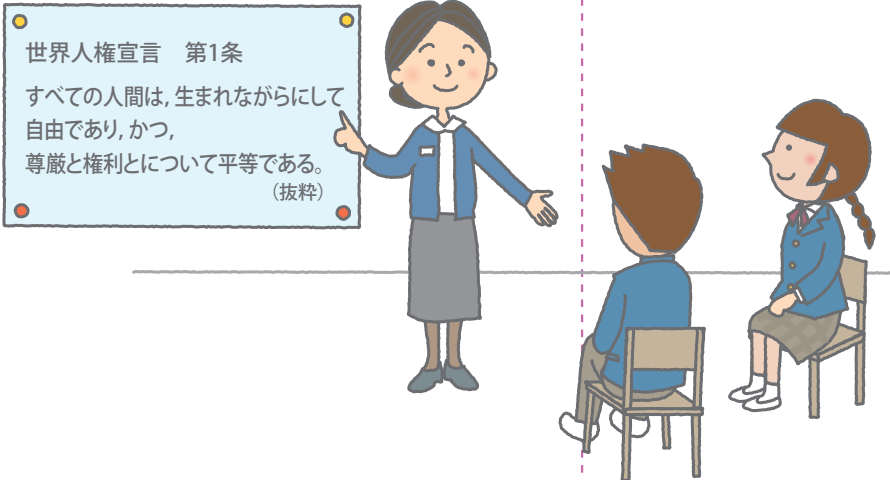
時間	場面 / アクティビティ / 問い	場の設定
10分/15分	② ワーク(展開) 1 『アニメ視聴』	
(1-1) 1分	(1-1) DVDの準備〜ファシリテーターの説明。 〈問い〉これから、短いアニメを見てもらいます。「どうしたら分かり合えるの?」というタイトルです。画面の見やすい位置に移動してくださいね。 (画面が見やすいように、モニターを調整) アニメでは、外国からのお客さんが訪れる旅館でのエピソードを描いています。3分半の内容です。どうぞ、よくご覧ください。 (アニメスタート)	DVDが見やすい位置に椅子を移動してもよい 太陽の反射で画面が見えにくならないようモニターの向きを配慮する 教室の電気を消すなどで照度の調整をする
(1-2) 4分	(1-2) アニメ視聴「どうしたら分かり合えるの?」(3分22秒) ● アニメが終了したら、電気をつけたり、カーテンを開けて環境を整える。 ● DVD視聴環境がない場合は、DVD資料集に収録のマンガを配布する。 配役を決めて、参加者に吹き出しのセリフを読んでもらってもよい。	● マンガを配布する 
(2) 3分	(2) 視聴後、内容を簡単に整理する。数名に感想を聞いてみる。 〈問い〉いかがでしたか? アニメの内容をふりかえりましょう。主人公の男の子の家は旅館を営んでいます。 外国人客の受け入れに反対の祖父母、積極的な父がいます。 外国人客を受け入れるようになって、様々な文化の違いに気がつきました。 また、同じ旅館に泊まる日本人客からの苦情もありましたね。 どんな場面が印象的でしたか? (感想は黒板に板書する) (例)「食生活が違う」 「入れ墨じゃなくてタトゥーはいいんじゃないか」 「お風呂の入りは知らないから仕方ない」 「言葉が分からないと困る」など ● 意見がすぐに出てこないようであれば、「言葉が通じなくて困ったことはある?」など身近な問いをして、アニメを自分のこととしてとらえるような質問をする。	発言は板書するとよい 

プログラムの進行台本『どうしたら分かり合えるの?』

時間	場面 / アクティビティ / 問い	場の設定
(3) 2分	(3) アニメのまとめを行い、次のワーク(展開)2につなげる。 〈問い〉日本には、多くの外国人が生活しています。日本に旅行に来る外国人の数も毎年増加しています。 ＊2020年の東京オリンピック・パラリンピックの時には、さらに日本国内に外国人が増加すると見込まれています。(＊2020年以降は削除してよい) そういう外国人の皆さんは、日本で快適な生活を過ごすことができているのでしょうか。 次のワークでは、日本人と外国人との違いや、違うと困ること、違っていいことなどを考えていきます。 では、6人グループの島型に移動してください。 (移動、グループ編成は事前に先生に決めてもらうとよい) 移動したら、グループワークで使う模造紙とマジックを取りに来てください。 (マジックの用意がなければ、各自の筆記具でよい)   島型	6人グループの島型に配置換えをし、着席する 模造紙(グループ1枚) マジック(人数分・色はバラバラでよい)  ＊グループの机の上に模造紙をおき、一人1本マジックを配る。

時間	場面 / アクティビティ / 問い	場の設定
25分/40分 (1-1) 10分	③ ワーク(展開)2『グループディスカッション「日本を訪れた、日本に住んでいる外国人が困っていること」』 (1-1) グループディスカッション「外国人のクラスメイトはどうして孤立したか、どうすれば孤立しないか?」を話し合う。 〈問い〉これからグループディスカッションを行います。 アニメで主人公の男の子のクラスで、孤立する外国人のクラスメイトがいました。 どうして孤立してしまったのか、どうしたら孤立しないかを話し合ってみましょう。そして、話しながら出た言葉を、模造紙の上半分に自由に書いてください。時間は7分です。 ● 模造紙は上下半分に分けて、上半分にディスカッションの内容を書き出す。単語だけやイラストを書いてもよい。 ● テーマに対して自分の意見をどんどん発言するよう声をかける。(司会や話す順番を決めなくてよい)。 ※「批判をしない」「自由に話す」「質より量」を説明する。	タイトル、テーマを板書(または、事前に書いておき、貼り出す) ・タイトル 「日本を訪れた、日本に住んでいる外国人が困っていること」 ・テーマ 「外国人のクラスメイト」 ＊事前にクラス担任と相談し、クラスに外国人の生徒がいる場合は、テーマを変えてもよい。
(1-2) 5分	(1-2) グループで整理したことを発表する 〈問い〉はい時間です。では、各グループの意見を発表してください。 ● 発表には「意外な発見ですね」「いろいろな考えがありますね」程度で感想を語らないでよい。	
(2-1) 7分	(2-1) グループディスカッション「お風呂(温泉)の入りを知らない外国人」について話し合う。 〈問い〉次は、アニメに出てきた「お風呂(温泉)の入りを知らない外国人」について考えます。 日本のお風呂(温泉)の入りを知らない外国人がいます。それを見て不快に思う日本人がいます。どうしたらよいでしょうか。 皆さんでどうやって解決できるか話し合ってください。 話し合った解決方法を5つ以上、模造紙の下半分に、自由に書き出してください。時間は5分です。 ● 模造紙の下半分にディスカッションの内容を書き出す。 ● (1-1)に同じ。	テーマを板書(貼る) 「お風呂(温泉)の入りを知らない外国人」

時間	場面 / アクティビティ / 問い	場の設定
(2-2) 3分	(2-2)グループで整理したことを発表する。 〈問い〉はい時間です。では、各グループの意見を発表してください。 ● 発表には「意外な発見ですね」「いろいろな考えがありますね」程度で感想を語らないでよい。	
10分/50分	4 クロージング(まとめ) 『チェックアウト』	
(1) 5分	(1)数名に感想を聞いて、ふりかえりを行う 〈問い〉各グループで話し合って、他のグループの発表も聞きました。今日のワークショップで感想や気づいたことを教えてください。 (例)「お風呂の入り方を色々な国の言葉で書く、という意見がよいと思った」 「文化や習慣の違いがあることをお互いに知ることが大切だと思った」 「日本人は外国の人にどう思われているのか気になった」など。	
(2) 4分	(2)ワークショップのまとめをする。 〈問い〉今日は、言葉や文化の違う外国人が日本に来たとき、それから住むときに困ることを考えました。いろいろありましたね。もし、自分が外国に行ったら、きっと同じことで困ることがあるのではないのでしょうか。 日本にいる外国人は、観光目的で一時的に滞在する人だけではありません。 日本で生活をしている外国人もたくさんいます。日本での生活は快適なことばかりではないようです。 (●以下の解説を参考に) ● グループディスカッションで出てきたことを取り上げてもよい。ここでは、中学生では気がつかない内容に触れ、現実的な問題を知ってもらう。 ● 外国人の就業問題(条件が悪い)、住宅問題(部屋を貸してくれない)、学校問題(言葉が分からず勉強ができない)など、情報不足、知識不足、理解不足などが原因。	

時間	場面 / アクティビティ / 問い	場の設定
	〈問い〉世界には、食事ができない子どもがいたり、文字が読めない人々もいます。女性の地位が低かったり、戦争をしている国もあります。 私たちが住む日本では想像もつかない環境で生活している人もたくさんいるのです。 世界人権宣言を知っていますか。 1948年12月10日の第3回国連総会で採択された、すべての人と国が守り達成すべき基本的人権についての宣言です。 世界人権宣言第1条に「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である」と書かれています。 今日は、世界の国や地域では言葉や文化、習慣の違いがあり、外国人が日本を訪れたり、日本で暮らすときに、差別や困ることがあることを知りました。 そして、その解決方法を話し合いました。 日本人が外国に行く場合も同様です。 お互いに文化や習慣の違いがあることを知り、違いを認め合うことが、多文化共生の第一歩です。 皆さんは今日考えたことを忘れずに、一人ひとりができることは何かを考え、実行していきましょう。	「世界人権宣言」を書いた模造紙を貼り出す * 付属DVDの資料集に、貼る紙のサンプルがありますので活用ください。
(3) 1分	(3)終わりの挨拶。 〈問い〉今日は、皆さんと一緒に、このワークショップに参加できて、とても楽しかったです。 これからも元気に学校生活を過ごしてください。終わります。ありがとうございました。	

4「インターネットと人権」プログラムの全体概要

プログラムシート

テーマについての背景・基本的な考え方

インターネットによりコミュニケーションの輪が広がり便利になる一方で、その匿名性、情報発信の容易さから、インターネットを悪用した行為が増えており、他人への誹謗中傷、無責任なうわさ、特定の個人のプライバシーに関する情報の無断掲示、差別的な書き込みなど、人権やプライバシーの侵害につながる情報が流れています。

その他、児童ポルノ、リベンジポルノなどの人権侵害も起きています。

現在は、パソコン、携帯電話、スマートフォン（スマホ）、タブレット端末、ゲーム機器などから、インターネットに簡単にアクセスできるようになり、小中高生等の青少年の利用が年々増加しています。

そのような中、SNS等における誹謗中傷の書き込み等、子どもが加害者や被害者になり、トラブルに巻き込まれる事案も発生しています。

インターネットの特徴として、使い方を間違えると、誰もが被害者にも加害者にもなる恐れがあり、また、一度ネット上に流出した写真などの個人情報は、その時だけの問題では収まらず、コピーされ

てネット上で拡散し削除されずに残り、将来においても被害を受け続けることがあります。特に、個人情報を掲載しやすいホームページやブログ、プロフ、SNSには注意が必要です。

ワークショップの実施例④では「インターネットと人権」をテーマとしたプログラム『「インターネットのルールとマナー」を考えよう!』を紹介しています。インターネット上での人権問題は多様な要素があることから、代表的な「ネットいじめ」と「プライバシー情報掲載によるトラブル」の2つの課題を取り上げ、2コマのプログラム展開としました。

インターネットを利用する際に有害な情報から子どもを守る有効な方法として「フィルタリング」がありますが、それだけでは十分でなく、一人ひとりが正しい知識やモラルを身に付け、適切な使い方をすることが求められます。各ワークを通して、インターネット上で起こりうるトラブルの状況を習得し、加害者にも被害者にもならないためのルールとマナーについて考えていきます。

アニメのあらすじ

事例1『顔が見えなければ何してもいいの?』

主人公の優太は、サッカー部に所属している中学3年生で、サッカー部の仲間とのコミュニケーションにSNSを使用しています。

ある日、強豪校とのサッカーの試合で負けてしまい、優太も大事なチャンスでシュートを外してしまいます。その日の夜、SNSで、試合に負けた原因として優太を責めるメッセージが相次ぎます。

優太が反論すると、誹謗中傷のメッセージがエスカレートします。優太は啞然としますが、気を取り直し、自分の非を認め、また一緒に頑張ろうとメッセージを送ります。しかし、メッセージは“既読スルー”され、誰からも返事が届きません。

翌日、学校で、優太が声を掛けてもみんなに無視されてしまいます。やがて、優太は学校や部活で仲間外れになって、SNSのグループからも外されてしまいます。どこにも居場所のなくなった優太は、結局サッカー部を辞めて、学校にも通えなくなりました。

事例2『自分のこと、そんなにのせても大丈夫?』

主人公の彩花は、仲良しの菜々と一緒に、自分の顔写真やプロフィールをのせて、知らない人とも共有できるアプリを始めました。

数日後、彩花のアプリに、アイドルのスカウトを名乗る中島という男から、メッセージが届くと、彩花は興味本位で返事を返します。何度かメッセージのやり取りしているうちに、すっかり打ち解けて、彩花は、自分や家族、友達のことも不用意に何でも教えてしまいます。

ある時、書類選考に使う水着姿の写真を要求され、彩花は迷ったものの、結局写真を送ってしまいます。写真を送ると、今度は会いたいというメッセージが届きます。彩花は、さすがに知らない人に会うのは怖いので断ります。

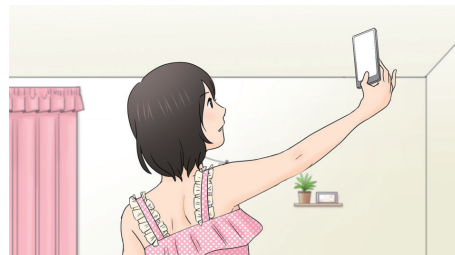
ところが、中島からは、水着姿の写真をバラまくことや、家に押しかけてやるなどと書かれた、脅迫まがいのメッセージが届きます。メッセージを見て怖くなる彩花ですが、写真のことを知られたくないし、誰にも言えないと困ってしまいます。



SNSのやり取りで友達に責められる優太



SNSでのトラブルからいじめに発展



スカウトを名乗る男に
水着姿の写真を送ってしまう彩花

「インターネットのルールとマナー」を考えよう!

タイトル

対象者／人数

中学生／40人程度

日程・時間／場所

100分／教室
(休憩を除く)

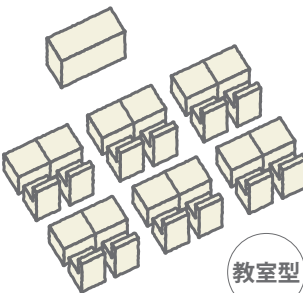
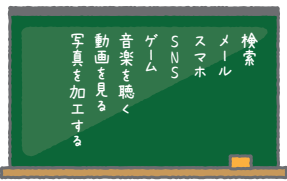
テーマ ● インターネットには様々なリスクがあり、使い方を間違えると人権侵害の被害者にも加害者にもなることを理解する。
目標 ● インターネットの正しい使い方を考える。

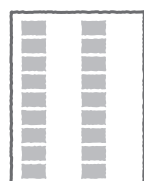
準備物 ● アニメの視聴環境 ● 模造紙(グループに1枚) ● 5か条を書き出すワークシート(グループに1枚) ● DVD(2種類) ● 三択クイズシート(人数分) ● マジック ● 各自の筆記用具 ● 付箋紙
*アニメのタイトル、ワールドカフェのテーマなど、黒板に貼り出す場合は事前に紙に書いて用意する

	時間	ねらい	場面／アクティビティ／問い	場の設定
1	5分	場をつくる 本日のテーマに入りやすくする	オープニング(導入)『チェックイン』 (1) ファシリテーターの挨拶。 (2) 「インターネット」の使用状況を聞き、板書する。 (3) 本日のテーマを伝える。	教室型でスタート
2	15分	基本的な知識・情報を共有する	ワーク(展開)1『アニメ視聴』 ～「顔が見えなければ何してもいいの?」 (1) アニメを見る。事例1では「ネットいじめ」がテーマ。 (2) アニメのまとめとして登場人物の言動や状況を整理する。 (3) 「ネットいじめ」とはどんなことか、数名に聞く。 SNSや掲示板などでの「ネットいじめ」の状況を整理する。	・DVDが見やすい位置に椅子を移動してもよい ・太陽の反射で画面が見えにくくならないようにテレビの向きに配慮する
3	25分	意見や考えを交換し、思考を深める	ワーク(展開)2『ワールドカフェ』 (1) ワールドカフェの説明、テーマの提示。 (2) (1回目)「自分がされて嫌だと感じる言葉や使い方」 (3) (2回目)「ネットいじめを防ぐルールとマナー」	・6人の島型に分かれる ・模造紙 ・マジック
4	5分	気づきや考えを共有し、理解を深める	ワーク(展開)3『展覧会』 (1) 他のグループの模造紙を見て回る。 (2) 数名に感想を聞いて、ふりかえりを行う。	・付箋紙
休憩 10分				
5	10分	基本的な知識・情報を共有する	ワーク(展開)4『アニメ視聴』 ～「自分のこと、そんなにのせても大丈夫?」 (1) アニメを見る。事例2では「プライバシー情報掲載によるトラブル」がテーマ。 (2) アニメのまとめとして登場人物の言動や状況を整理する。 (3) 「プライバシー」とはどんなことか、何人かに聞いてみる。	・(島型のまま)DVDが見やすい位置に椅子を移動してもよい ・太陽の反射で画面が見えにくくならないようにテレビの向きに配慮する
6	15分	情報の幅を広げ、正しい知識を得る	ワーク(展開)5『あなたならどうする? 三択クイズ』 (1) インターネットの様々な場面であなたならどう思うかについて、各自で三択クイズに回答を記入する。 (2) 記入後、設問ごとに挙手してもらい、数名に意見を聞く。 (3) 設問ごとのまとめとして、具体的なリスクを整理する。	・三択クイズシート
7	15分	多様な捉え方、多面的な見方をしたうえで思考を深める	ワーク(展開)6『「インターネットのルールとマナー」づくり』 (1) 島型の6人グループで「インターネットのルールとマナー」について話し合い、各グループで5か条を作成する。 (2) グループごとに発表する。 (3) ファシリテーターのまとめ。	・5か条を書き出すワークシート(白紙)
8	10分	ふりかえり 気づきや考えを共有し、意識変容や行動につなげる	クロージング(まとめ)『チェックアウト』 (1) 数名に感想を聞いて、ふりかえりを行う。 (2) ファシリテーターのまとめ、挨拶。	

備考 ● DVDの視聴環境がない場合は、マンガ(A3サイズ)を人数分コピーし、②⑤で一人1枚ずつ配布する。

『「インターネットの プログラムの進行台本 ルールとマナー」を考えよう!』

時間	場面 / アクティビティ / 問い	場の設定
5分/5分	① オープニング(導入) 『チェックイン』	
(1) 1分	(1) ファシリテーターの挨拶。 〈問い〉皆さん、こんにちは。ファシリテーターの〇〇です。ファシリテーターとは、このワークショップの進行役のことです。 (簡単に自己紹介) 今日は、「インターネットと人権」というテーマでワークショップを行います。	教室型でスタート 
(2) 3分	(2-1) 黒板に“インターネット”と書き、インターネットの使用状況を数名に聞いてみる。出てきた言葉を板書する。 〈問い〉インターネットを使っていますか? どんな使い方をしていますか? (例)「検索」「メール」「スマホ」「SNS」「ゲーム」「音楽を聴く」「動画を見る」「写真を加工する」など (2-2) インターネットで困ったことについて数名に聞き、板書する。 〈問い〉みなさん、詳しいですね。インターネットは皆さんにとって、便利な楽しいもののようですね。 では、インターネットで困ったことはありますか? (例)「つながらない時がある」「知らない人からメールがきた」「知らないうちに写真を撮られてブログに載せられていた」など ● 参加者の意見や発言に対し、「そうだね」「なるほど」などと応じる。	板書はそのまま残しておく とよい 
(3) 1分	(3) 本日のテーマを伝える。 〈問い〉インターネットは、パソコン、スマートフォン、タブレット、ゲーム機などから利用できます。 今日のワークショップのテーマは『インターネットと人権』です。インターネットでは、誰もが人権侵害やトラブルの被害者にも加害者になる危険性があります。 皆さんが被害者にも加害者にもならないために、正しい使い方を考えていくことが、今日のワークショップの目的です。 では、最初にアニメを見ますので、よく見える位置に移動してください。	

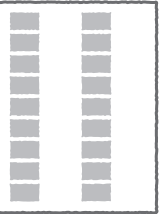
時間	場面 / アクティビティ / 問い	場の設定
15分/20分	② ワーク(展開) 1 『アニメ視聴』事例1「顔が見えなければ何してもいいの?」	
(1-1) 2分	(1-1) DVDの準備～ファシリテーターの説明。 〈問い〉用意ができました。アニメのタイトルは『顔が見えなければ何してもいいの?』です。約4分間です。	DVDが見やすい位置に椅子を移動してもよい 太陽の反射で画面が見えにくならないようにテレビの向きに配慮する
(1-2) 3分	(1-2) アニメ視聴事例1「顔が見えなければ何してもいいの?」(3分44秒) ● アニメが終了したら、電気をつけたり、カーテンを開けて環境を整える。 ● DVD視聴環境がない場合は、DVD資料集に収録のマンガを配布する。配役を決めて、参加者に吹き出しのセリフを読んでもらってもよい。	● マンガを配布する 
(2) 1分	(2) アニメのまとめとして登場人物の言動や状況を整理する。 〈問い〉アニメの内容をふりかえります。テーマは“ネットいじめ”でした。優太さんは、サッカー部仲間とSNSでコミュニケーションを楽しんでいました。ところが、ある試合の後のメッセージが大きなトラブルに発展し、優太さんは仲間から孤立してしまい、サッカー部を辞めることになってしまいました。	
(3-1) 3分	(3-1) アニメの感想を数名に聞き、板書する。 〈問い〉アニメを見た感想を教えてください。 (例)「一人に対してみんなから責められるのが怖い」「軽い気持ちで書いたことでもSNSだと強い言葉に感じる」など ● 発言が出てこない場合「SNSは使っていますか?」「優太さんはどんな気持ちだろう」「こういう経験ありますか?」「なぜこのような結果になったのでしょうか」など問いかける。	
(3-2) 3分	(3-2) “ネットいじめ”とはどんなことか数名に聞き、板書する。 〈問い〉“ネットいじめ”とはどんなことでしょうか?	
(3-3) 3分	(3-3) 参加者の意見を引用しながら、SNSやネットの掲示板などでの「ネットいじめ」の状況を一通り整理する。 〈問い〉「実は、このアニメの出来事は、日本中のあちこちで実際に発生しているトラブルです。それは、皆さんと同じ中学生はもちろん、インターネットのSNSを使うあらゆる世代で起きています。SNSのほかにネット上の掲示板での書き込みによって、自分の知らないところで噂が広がるという“ネットいじめ”もあります。」	

『「インターネットの プログラムの進行台本 ルールとマナー」を考えよう!』

時間	場面 / アクティビティ / 問い	場の設定
20分/40分 (1) 2分	今日は、皆さんで『インターネットと人権』をテーマに、一人ひとりが守られるべき人権について考えを深めていきましょう。 ③ ワーク(展開) 2 『ワールドカフェ』 (1) ワールドカフェの説明。テーマを提示し、模造紙にテーマを書く。 〈問い〉では、6人のグループを作って座りましょう。これから“ワールドカフェ”という形でグループでの話し合いを行います。ワールドカフェは、お互いの言葉を模造紙に書きながら、自由に意見交換をしていくグループ討議の方法です。 (ここでサンプル模造紙を見せる) 今日は、ワールドカフェを2回やります。1回目のテーマは『インターネットで自分がされて嫌だと感じる言葉や使い方』です。どなたか代表して模造紙の真ん中に“インターネット”と書いてください。	6人グループの島型に配置換えをし、着席する。 ※事前に担任にグループ分けを依頼しておくとい 模造紙、マジックを配布する。 (サンプル模造紙を見せて記入の仕方を例示すると理解しやすくなる) ＊付属DVDの資料集に、サンプル模造紙がありますのでご活用ください。
(2-1) 7分	(2-1) ワールドカフェ1回目「インターネットで自分がされて嫌だと感じる言葉や使い方」を実施。 〈問い〉では、1回目のワールドカフェをスタートします。時間は7分です。はい、スタートしましょう。 ● ファシリテーターは各グループを見て回り、模造紙に記入ができてないようであれば、発言を聞いて何か書いてみせる。 ● 意見を言いたくない人もいるので、無理強いはいしない。	テーマを板書(または、事前にテーマを紙に書いておき、貼り出す)
(2-2) 3分	(2-2) グループ替えをする。 〈問い〉7分経ちました。ワールドカフェ終了です。他のグループの模造紙にどんなことが書かれているか、気になりますね。ここで、グループのメンバーを変えます。隣の人とジャンケンをしてください。 (ジャンケンをする) 負けた(勝った)人はそのままの席に残ります。勝った(負けた)人は時計まわりに隣のグループに移動します。 (移動する)	テーマを板書(または、事前にテーマを紙に書いておき、貼り出す)

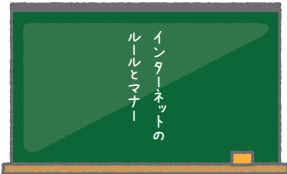
時間	場面 / アクティビティ / 問い	場の設定
(3) 8分	模造紙はそのままです。移動してきた人は模造紙を見てください。そのまま座っている人は、模造紙の内容を簡単に説明してください。 (3) ワールドカフェ2回目「ネットいじめを防ぐルールとマナー」を実施。 〈問い〉「では、新しいメンバーで2回目のワールドカフェをします。テーマは『ネットいじめを防ぐルールとマナー』です。先ほどは、ネットに書かれて嫌だと感じる言葉や使い方を話しました。どうすれば、嫌な思いをしないでしょうか。どうすれば、楽しくネットでコミュニケーションが取れるでしょうか。先ほどの模造紙の空いているところに、「ネットいじめを防ぐルールとマナー」と書いてください。1回目と同じように、自分の意見をどんどん発言しましょう。聞いた言葉を模造紙に書いていきましょう。ワールドカフェ、スタートです。 ● 7分経ったら、終了を告げる。	テーマを板書(または、事前にテーマを紙に書いておき、貼り出す)
10分/50分 (1) 5分	(1) 他のグループの模造紙を見て回る。 〈問い〉最後に模造紙の展示会をします。立ち上がって他のグループを見て回ります。気になる言葉や“いいね”と思った言葉に付箋紙を貼ったり、感じたことを付箋紙に書いて貼っていきましょう。	各グループの机に模造紙を広げて見て回る。 付箋紙を配布する。
(2-1) 4分	(2-1) 数名に感想を聞いて、ふりかえりを行う。 〈問い〉では、席に戻りましょう。ワールドカフェを2回体験しましたが、いかがでしたか? 今の気持ち、感想を教えてください。	6人の島型で着席する。
(2-2) 1分	(2-2) 前半のまとめ。 〈問い〉インターネットは文字をメインにしたコミュニケーションなので、言葉の意味を誤解されたり、相手の反応が分からずに文字だけが行ったり来たりすることもあります。皆さんのワールドカフェでも「自分が書かれて嫌な言葉は書かない」「夜中のネットはしない」「気持ちはなるべく会って顔を見て話す」などの意見が出てきました。	感想を板書する。

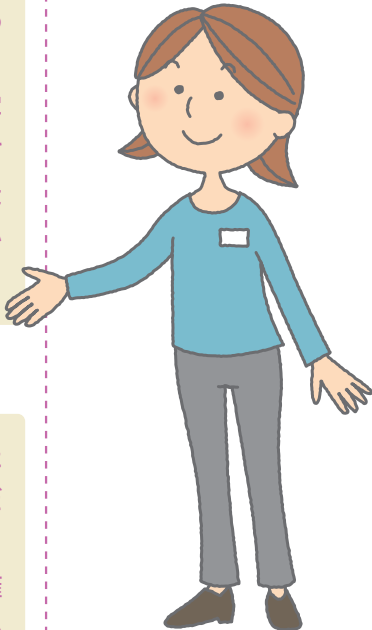
『「インターネットの プログラムの進行台本 ルールとマナー」を考えよう!』

時間	場面 / アクティビティ / 問い	場の設定
	一人ひとりがネットの使い方のルールを守りたいですね。 これで、前半のワークショップを終了します。10分間休憩をします。 ● まとめの言葉は、感想で出た意見や模造紙の中の言葉を使って、参加者の気持ちに寄り添うように伝える。	
10分	休憩	
10分/60分	⑤ ワーク(展開)4 『アニメ視聴』事例2「自分のこと、そんなにのせても大丈夫？」 (1-1) DVDの準備～ファシリテーターの説明。 〈問い〉ワークショップの後半を始めます。2本目のアニメを見ます。座席はそのままですが、アニメが見やすい位置に移動してください。次に見るアニメは『自分のことそんなにのせても大丈夫?』というタイトルで、約3分間です。では、アニメ、スタートします。 (1-2) アニメ視聴事例2「自分のこと、そんなにのせても大丈夫?」(3分01秒) ● アニメが終了したら、電気をつけたり、カーテンを開けて環境を整える。 ● DVD視聴環境がない場合は、DVD資料集に収録のマンガを配布する。配役を決めて、参加者に吹き出しのセリフを読んでもらってもよい。 (2) 1分 (2) アニメのまとめとして登場人物の言動や状況を整理する。 〈問い〉アニメの内容をふりかえります。テーマは“プライバシー情報掲載によるトラブル”でした。彩花さんは、自分のプロフィールや写真をのせるアプリを始めたところ、スカウトと名乗る男からメッセージが届きました。彩花さんは、知らない男とやり取りし、不用意に個人情報や水着姿の写真を送ったことから、脅迫されるトラブルに発展してしまいました。 (3) 4分 (3-1) アニメの感想を数名に聞き、板書する。 〈問い〉アニメを見て“プライバシー”とはどんなことだと思いましたか? (例)「知らない人には教えない」「水着の写真を送るなんておかしい」「自分はやらなくても、他の人が勝手にやるかも」など ● 発言が出てこない場合は、「名前、住所など、どこまでがプライバシーだと思いますか?」など問いかける。	(島型のまま) DVDが見やすい位置に椅子を移動してもよい 太陽の反射で画面が見えにくくならないようにテレビの向きに配慮する ● マンガを配布する 

時間	場面 / アクティビティ / 問い	場の設定
	(3-2) 参加者の意見を引用しながら、プライバシー情報掲載によるトラブルについて整理する。 〈問い〉スカウトと名乗る男は、嘘をついて彩花さんに近づいてきたそうですね。誰だか分からない相手に、彩花さんは、自分や家族の情報を教えて、水着姿の写真も送ってしまいました。こうしたプライバシー情報や写真は、インターネット上から消すことは難しく、ずっと残ってしまいます。先ほどの「ネットいじめ」や「プライバシー情報掲載によるトラブル」は、インターネットによる人権侵害やトラブルのほんの一例です。インターネットにはどんな危険が潜んでいるのか、もう少し見てみましょう。	
15分/75分	⑥ ワーク(展開)5 『あなたならどうする? 三択クイズ』 (1-1) 三択クイズの配布～ファシリテーターの説明。 〈問い〉今度は、三択クイズでインターネットの様々な場面を考えてみます。ここでは正解を選ぶのではなく、自分がそうだったことを直感で選んでください。 (1-2) 三択クイズの回答に記入する。 〈問い〉時間は2分です。では、書き始めてください。 ● 2分経ったら、終了を告げる。クイズはあまり時間をかけずに実施する。 (2)(3) 12分 (2) 三択クイズの設問ごとに回答を挙手してもらい、数名に意見を聞いてみる。 〈問い〉では、設問1から聞いていきます。○○についてAだと思う人は手を挙げてください。(見渡して) Bだと思う人…Cだと思う人。では、Aの人、どうしてそう思いましたか?(各回答で1～2名程度聞く) (3) 設問ごとのまとめとして、具体的なリスクを整理する。 〈問い〉答えは○です。理由は…です。 ● 三択クイズの設問、答え、問い等はファシリテーター(指導者)用シートを参照する。 ● (2)(3)を設問ごとに繰り返す。	三択クイズシートを全員に配布する。 ※ファシリテーター(指導者)用のシートは配布しない。 *付属DVDの資料集に、「三択クイズ」のサンプルがありますのでご活用ください。

『「インターネットの
プログラムの進行台本
ルールとマナー」を考えよう!』

時間	場面 / アクティビティ / 問い	場の設定
15分/90分 (1-1) 2分	⑦ ワーク(展開) 6 『「インターネットのルールとマナー」づくり』 (1-1)『「インターネットのルールとマナー」づくり』の説明。 〈問い〉インターネットには様々なリスク、危険がありますが、使い次第でトラブルを防げることが分かってきました。 そこで、自分たちが被害者にも加害者にもならないための「インターネットのルールとマナー」について考えていきます。 各グループで“インターネットのルールとマナー5か条”を話し合っ て、ワークシートに書き出してください。	5か条を書き出すワークシート(白紙)をグループに配布する。 6人の島型のままで着席。 タイトルを板書または貼る 
(1-2) 7分	(1-2)グループで考えてワークシートに書き出す。 〈問い〉時間は7分です。では、スタートしてください。 ● ファシリテーターは各グループを見て回り、「インターネットにはどんなリスク、危険がありますか?」「被害者にも加害者にもならないためには、どんな方法がありますか?」などとヒントを提示する。	
(2) 5分	(2)グループごとに発表する。 〈問い〉グループで考えたことを発表しましょう。 ● 発表に対し、「そうだね」「なるほど」「いい意見ですね」などと応じる。 発表内容が不明瞭な場合は、「どうしてそう思ったのですか」などと具体的に聞いていく。 ● 各グループの5か条を前の黒板に貼ってもよい。	
(3) 1分	(3)ファシリテーターのまとめ。 〈問い〉各グループの5か条ができました。みんながこれを守れば、インターネットでのトラブルを防げるかもしれません。 しかし、インターネットは常に技術が進歩して使い方も変わってきます。 悪意のある人からのアクセスがあるかもしれません。 それでも、今日考えた5か条を常に意識していれば、深刻なトラブルになる前に、解決ができるのではないのでしょうか。	

時間	場面 / アクティビティ / 問い	場の設定
10分/100分 (1) 5分	⑧ クロージング(まとめ) 『チェックアウト』 (1)数名に感想を聞いて、ふりかえりを行う 〈問い〉今日は、『インターネットと人権』について2つのアニメをみてワークショップを進めてきました。いかがでしたか? 今日の感想を聞かせてください。 (例)「ネットいじめとか知らなかった」「子どもにもプライバシーがある」「ネットだとみんないい人だと思っていた」「5か条は難しかった」など ● 「5か条で気になる言葉はありましたか?」などと問いかけ、発言を引き出す。	
(2) 5分	(2)ファシリテーターによるまとめ、挨拶。 〈問い〉インターネットは、自分ひとりで見たり、操作をしますが、実際に見えなくても常に相手がいることを意識してください。メッセージを送る前に、そのメッセージが自分に届いたらどう思うか、一度考えてみてください。 そして、インターネット上に掲載されたプライバシー情報や写真は、完全に消すことができないことを常に意識してください。インターネットでは、情報が独り歩きして、あなたの知らないところで悪用されたり、あなたに悪意を持って近づく人がいることも、忘れないでください。 ● 5か条や参加者の発言の言葉を使って全体をまとめるとよい。 〈問い〉もし、インターネットによる人権侵害やトラブルの被害者または加害者になってしまった場合は、悩まずに必ず相談してください。 皆さんの保護者の方、学校の先生はもちろん、私たち人権擁護委員、法務省の人権相談窓口などでも相談を受け付けています。 健康面からもインターネットの利用が長時間にならないよう、使い過ぎにも注意し、楽しく賢く活用してください。 これで、ワークショップを終わります。	

*実施例④は前半(事例1)・後半(事例2)を個別に実施することもできます。付属DVDの資料集1.「プログラムシート」を使って、ワークショップの構成を考え、アレンジしてください。

DVDの構成内容

人権啓発ワークショップ事例集

ワークショップをやってみよう

参加型の人権教室

映像	ワークショップの実施例	全17分50秒
●実施例① 人権全般	『どうしたらみんなが幸せに暮らせるの?』	(3分01秒) →P8～P15
●実施例② 障害のある人	『障害って何だろう?』	(4分41秒) →P16～P23
●実施例③ 外国人・多文化共生	『どうしたら分かり合えるの?』	(3分22秒) →P24～P31
●実施例④ インターネットと人権 事例1「ネットいじめ」	『顔が見えなければ何してもいいの?』	(3分44秒) →P32～P41
●実施例④ インターネットと人権 事例2「プライバシー情報掲載によるトラブル」	『自分のこと, そんなにのせても大丈夫?』	(3分01秒) →P32～P41

資料集 (※「資料集」はパソコンでの閲覧時のみ使用可能。DVDプレーヤーでは使用できません。)	
1. 「プログラムシート」	[Word] (ファイル名: 01_programsheet.doc)
実施例①「人権全般」	
2. マンガ『どうしたらみんなが幸せに暮らせるの?』	[PDF] (ファイル名: 02_no1_manga.pdf)
3. 貼り紙:人権とは	[Word] (ファイル名: 03_no1_jinkentowa.doc)
4. 貼り紙:人権／権利／ヒューマンライツ	[Word] (ファイル名: 04_no1_harigami.doc)
5. 短冊	[PDF] (ファイル名: 05_no1_tanzaku.pdf)
実施例②「障害のある人」	
6. マンガ『障害って何だろう?』	[PDF] (ファイル名: 06_no2_manga.pdf)
7. 貼り紙:バリアフリー／ユニバーサルデザイン	[Word] (ファイル名: 07_no2_harigami1.doc)
8. 貼り紙:障害のある人が暮らしやすい社会を考えよう	[Word] (ファイル名: 08_no2_harigami2.doc)
9. 配布用:バリアフリー・ユニバーサルデザイン	[PDF] (ファイル名: 09_no2_barrierfree.pdf)
実施例③「外国人・多文化共生」	
10. マンガ『どうしたら分かり合えるの?』	[PDF] (ファイル名: 10_no3_manga.pdf)
11. 貼り紙:世界人権宣言 第1条	[Word] (ファイル名: 11_no3_sekaijinken.doc)
実施例④「インターネットと人権」	
12. 事例1) マンガ『顔が見えなければ何してもいいの?』	[PDF] (ファイル名: 12_no4_manga1.pdf)
13. 事例1) ワールドカフェのサンプル模造紙	[PDF] (ファイル名: 13_no4_worldcafe.pdf)
14. 事例2) マンガ『自分のこと, そんなにのせても大丈夫?』	[PDF] (ファイル名: 14_no4_manga2.pdf)
15. 事例2) 三択クイズ	[Word] (ファイル名: 15_no4_santaku_quiz.doc)

※「資料集」のデータの取り出し方は、右ページをご参照ください。



「資料集」のデータの取り出し方

当DVDには映像の他に、「ワークショップの実施例」で使用する各種資料のデータ (P42・15点) が収録されています。

Windowsをご利用の方

DVD再生ソフトが起動している場合は、DVDのメニュー画面を閉じて終了する → デスクトップまたはスタートメニューより「コンピューター」を開く → DVDドライブを右クリックし、プルダウンメニューより「開く」または「展開」をクリック → 【DVD_DATA】フォルダをダブルクリック → 各データがあります。

Macintoshをご利用の方

DVD再生ソフトが起動している場合は、DVDのメニュー画面を閉じて終了する → デスクトップのDVDアイコンをダブルクリック → 【DVD_DATA】フォルダをダブルクリック → 各データがあります。

※「資料集」のデータを使用するためには、「Microsoft Word」「Adobe Reader」が必要です。

※「資料集」のデータは、人権ライブラリーホームページからもダウンロードできます。

人権ライブラリー 教材 検索

法務局・地方法務局の電話・メール人権相談窓口

みんなの人権110番 (全国共通)

子どもの人権110番 (全国共通・通話料無料)

女性の人権ホットライン (全国共通)

0570-003-110

0120-007-110

0570-070-810

インターネット人権相談受付窓口

●パソコンからは <http://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken113.html>

●携帯電話からは <https://www.jinken.go.jp/soudan/mobile/001.html>

インターネット人権相談 検索